

昭和十二年度執務報告

第廿册 第一課關係

東亞局長 石射猪太郎

第一章 支那事變ノ發端

第一節 蘆溝橋事件

豐臺駐屯日本北支駐屯軍第一聯隊第八中隊ハ昭和十二年七月七日夜北平西南郊蘆溝橋ニ於テ演習中午後十一時四十分頃二十九軍ニ屬スル馮治安麾下ノ部隊ノ爲同部落及同地北方ノ龍王廟方面ヨリ射撃セラレタルニ依リ直ニ演習ヲ中止シ豐臺殘存部隊ト共ニ蘆溝橋支那兵營ヲ距ル五六百米ノ地點ニ集結セリ北平駐在ノ我陸軍特務機關長ハ直チニ冀察側ニ聯絡シ寺平大尉、櫻井顧問、外交委員會林耕宇等ノ一行ハ現地調査ノ爲八日午前三時半北平發現地ニ急行連絡ニ當リタルモ兩軍ハ午前五時二十分頃再ヒ砲火ヲ交ヘ我方ハ野島少尉負傷シ鹿内准尉戰死其ノ他若干ノ損害アリタリ尙七日夜ノ不法射撃ト同時ニ豐臺天津間、豐臺北平間軍用電話不通トナリ支那側ノ攻撃カ計畫的ニ非サルヤヲ疑ハシメタリ

S 1.1.1.0 - 27

3931

0005

七月十一日  
現地  
成立

八日午前十一時支那側參謀ハ我方將校ト現地ニ於テ會見シ不取敢永定河南方中ノ島ノ支那部隊ハ同河西岸ニ撤退シ北方中ノ島ノ我部隊ハ東岸ニ撤收方話合成立シ同參謀ハ之ヲ支那側本部隊ニ諮リ承諾スルニ於テハ二時間以内ニ撤退スルコトナレリ一方我方ハ北平ニ於テ秦德純ト折衝セルモ先方ハ日本側ニ非アリトノ主張ヲ堅持セル爲交渉ハ決裂ニ瀕シタルカ尙折衝ノ結果漸ク支那側ハ撤退ヲ承諾シ九日午後四時頃蘆溝橋殘留支那部隊ハ永定河以西ニ撤退ヲ完了シ保安隊代ッテ入城シ我軍亦豐臺方面ニ集結ヲ開始セリ然ルニ命令充分徹底セザリシ爲カ十日夕刻ヨリ現地支那軍ハ約ニ反シ龍王廟ヘノ再進出、衙門口方面ヨリノ發砲竝ニ永定河右岸ヨリノ射撃等ノ挑戰的行動ニ出テ來レルモ(支那兵約百名ハ十日午後五時頃蘆溝橋北方約四軒衙門口附近ヨリ蘆溝橋驛附近ノ我カ部隊ニ攻撃ヲ加ヘ又永定河右岸ニ兵力ヲ増加シ迫撃砲ヲ以テ我カ部隊ヲ射撃セリ)我方ハ尙和平解決ノ希望ヲ棄ルコトナク銳意折衝ヲ續ケタル結果十一月午後八時漸ク日支双方ノ話合妥結ヲ見第二十九軍代表トシテ張自忠及張允榮ハ(一)第二十九軍代表ハ日本軍ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ且責任者ヲ處分シテ將來責任ヲ以テ再ヒ斯ノ如キ事件ノ惹起ヲ防止スルコトヲ聲明ス(二)支那軍ハ豐臺駐屯日本軍ト接近シ過キ事件ヲ惹起シ易キヲ以テ蘆溝橋城廓及龍王廟ニ軍ヲ留メス保安隊ヲ以テ其ノ治安ヲ維持ス(三)本事件ハ所謂藍衣社、共產黨ノ他抗日系各團體ノ指導ニ胚胎スルコト多キニ鑑ミ將來之カ對策ヲ爲シ且取締ヲ徹底スルノ三項ノ全部ヲ承諾セリ尤モ支那側ノ挑戰的行動ハ依然盛ニシテ果シテ誠意ヲ以テ本取極ヲ實行スルノ誠意ヲ

S 1.1.1.0 : 27 3932

有スルヤ疑問ナリシヲ以テ我方ハ支那側不信行爲ヲ監視スルト共ニ其後ノ行動ニ付テモ準備ヲ怠ラザリキ

### 第二節 現地ニ於ケル折衝竝事件ノ擴大

三條件  
七項目  
七具

七月十一日午後八時調印ヲ了シタル三條件ノ第三項ノ具體化トシテ十四日天津軍ヨリ(一)排日取締(二)排日要人ノ罷免(三)排日機關ノ撤廢(四)藍衣社ノ取締(五)排日言論ノ取締(六)學生運動ノ取締(七)第二十九軍ノ北平撤退ト保安隊ノ入城ヲ要求シ度キ旨意見開陳アリ右ニ對シテハ中央ヨリ回訓ヲ差控ヘ居タル處十四日夕天津軍專田參謀宋哲元ト會見ノ際專田ヨリ個人的意見トシテ前記七項目ヲ要求セル處宋ハ原則トシテ之カ承認ニ異議ナキモ其ノ實行ハ緩漫ニ願ヒ度キ旨答ヘタル由ナリ

三條件  
七項目  
七具

一方同夜張自忠、齊燮元、陳覺生等宋哲元ノ代表トシテ天津軍橋本參謀長ヲ來訪ノ際參謀長ヨリ三條件(天津軍側トシテハ陳謝ハ宋哲元之ヲ行ヒ、處罰ハ馮治安ノ罷免ヲ要求シ來レルモノノ如シ)竝ニ前記七項目ノ具體化ヲ要求シタルニ對シ支那側ヨリ(1)陳謝ニ付テハ面子ノ問題モアリ宋哲元ノ代リニ副軍長(註、秦德純)トセラレ度キコト(2)責任者ノ處分ニ付テハ馮治安ノ代リニ事件發生當時蘆溝橋駐屯ノ大隊長ヲ以テ我慢セラレ度キコト(3)軍隊ノ撤退ニ關シテハ蘆溝橋部落ノ西側及八寶山南側地區ニ今尙殘留シ居ル部隊ノ撤退ハ直ニ實行ス(4)共產黨及排日ノ取締ニ關スル七項目ハ大體應諾

三

S 1.1.1.0 : 27 3933

冀察側ノ  
要求承諾

宋哲元香  
月司令官  
來訪陳述

スルモ第七項ハ保安隊ノ代リニ張自忠ノ部隊ヲ以テ北平ノ警備ニ當ラシムルコトスト訂正シ且他ノ諸項ト切放シ實行スルコトト致シ度旨ヲ申出アリタルカ(本件支那側申出ニ關シテハ「中央ニ於ケル方針措置」ノ内第三項參照)其後交渉進捗シ支那側ヨリ(1)謝罪スヘキ人物ハ宋哲元ヲ指定スルコトト致度旨申出テ(2)處分スヘキ責任者ハ盧溝橋駐屯ノ大隊長トスヘキ馮治安ヲ訓戒スヘシト申出テ天津軍ヨリ(3)將來ノ保障ニ付テハ前記七項目ヲ列擧要求シ特ニ排日要人ノ罷免ニ付テハ其ノ人名ヲ先ツ先方ニ於テ研究スル様申入レタルカ支那側ヨリ(4)北平城内ニ軍隊ヲ駐屯セシメサル件ニ付テハ宋ノ衛隊ノミハ駐屯ヲ認メラレ度旨申出テタル經緯アリタリ

然ルニ冀察側ニ於テハ事態ノ切迫ヲ認識シ急遽約束實行方ヲ宋哲元ニ説得中ノ模様ナリシ處十七日夜橋本參謀長張自忠ト交渉ノ結果(1)宋哲元ニ於テ司令官ニ對シ謝罪スルコトニ異存ナシトテ口頭謝罪ノ文言ニ付打合ヲ了シ(2)宋ハ謝罪ヲ済マシタル上ハ直ニ赴平シテ處罰(結局大隊長ノ罷免ト馮治安ノ譴責ニ落着セルコト後記ノ通り)及七項目ノ實行ニ取掛ル積リナル旨言明シ結局冀察首腦部ハ軍ノ要求全部ヲ承諾セルカ同參謀長トシテモ現在ニ於ケル冀察政權及第二十九軍内部ノ事情竝ニ南京側態度等ニ顧ミ且ハ細部要求事項中ニハ期限ヲ附シテ實行セシムル事困難ナルモノ多キヲ以テ誓約成立後モ尙相當ノ期間後實行ヲ開始スルコト然ルヘシトノ意見ナリキ

越ヘテ十八日午後一時宋哲元ハ張自忠ヲ伴ヒ天津偕行社ニ香月司令官ヲ訪ヒ今回ノ事件ニ關シ遺憾ノ

二十九  
年  
七月  
二十  
日

意ヲ表スルト共ニ共產黨分子其ノ他ノ策動ヲ禁止シ日支親善ノ爲一段ノ努力ヲ致スヘキ旨述ヘタルヲ以テ同司令官ハ北支ノ特殊性ト時局ノ重大性ニ鑑ミ宋哲元カ一大決心ヲ以テ亦態ノ收拾ニ當ルニ於テハ日本軍モ全幅ノ支援ヲ惜マサルヘク要ハ實行ニアル旨竝ニ現下ノ情勢ニ於テハ中央軍ノ冀察侵入ニ關シ特ニ大ナル關心ヲ有スルモノナルコトヲ述ヘ尙細目ニ關シテハ參謀長以下ヲシテ引續キ協議決定セシムヘキ旨申聞ケ引續キ右ニ基キ十九日第二十九軍代表張自忠、張允榮ハ左ノ如キ誓約文ニ調印セ

「本月十一日調印ニ關スル誓約特ニ第三項實現ノ爲メ左記各項ノ實行ヲ約ス

- 一、共產黨ノ策動ヲ徹底的ニ彈壓ス
  - 二、双方ノ合作ニ不適當ナル職員ハ冀察ニ於テ自發的ニ罷免ス
  - 三、冀察範圍内ニ其ノ各方面ヨリ設置スル各機關内ノ排日色彩ヲ有スル職員ヲ取締ル
  - 四、藍衣社、C・O團等ノ如キ排日團體ハ冀察ニ於テ之ヲ撤去ス
  - 五、排日言論及排日宣傳機關及學生民衆等ノ排日運動ヲ取締ル
  - 六、冀察所屬ノ各部隊ヲ以テ學校ノ排日教育及各學校ノ排日運動ヲ取締ル
- 右ノ外北平城内ニ在ル第三十七師ノ部隊ヲ他ニ撤去セシムルコトハ冀察ニ於テ自發的ニ之ヲ實行スルコトトシ右ヲ文書ニ依リ二十日中ニ軍ニ報告シ來ルヘキ旨約セリ(新聞等ニハ七月十九日夜軍ハ二十

冀察側ノ  
要求承諾

宋哲元香  
月司令官  
來訪陳述

スルモ第七項ハ保安隊ノ代リニ張自忠ノ部隊ヲ以テ北平ノ警備ニ當ラシムルコトスト訂正シ且他ノ諸項ト切放シ實行スルコトト致シ度旨ヲ申出アリタルカ(本件支那側申出ニ關シテハ「中央ニ於ケル方針措置」ノ内第三項參照)其後交渉進捗シ支那側ヨリ(1)謝罪スヘキ人物ハ宋哲元ヲ指定スルコトト致度旨申出テ(2)處分スヘキ責任者ハ盧溝橋駐屯ノ大隊長トスヘキ馮治安ヲ訓戒スヘシト申出テ天津軍ヨリ(3)將來ノ保障ニ付テハ前記七項目ヲ列擧要求シ特ニ排日要人ノ罷免ニ付テハ其ノ人名ヲ先ツ先方ニ於テ研究スル様申入レタルカ支那側ヨリ(4)北平城内ニ軍隊ヲ駐屯セシメサル件ニ付テハ宋ノ衛隊ノミハ駐屯ヲ認メラレ度旨申出テタル經緯アリタリ

然ルニ冀察側ニ於テハ事態ノ切迫ヲ認識シ急遽約束實行方ヲ宋哲元ニ説得中ノ模様ナリシ處十七日夜橋本參謀長張自忠ト交渉ノ結果(1)宋哲元ニ於テ司令官ニ對シ謝罪スルコトニ異存ナシトテ口頭謝罪ノ文言ニ付打合ヲ了シ(2)宋ハ謝罪ヲ済マシタル上ハ直ニ赴平シテ處罰(結局大隊長ノ罷免ト馮治安ノ譴責ニ落着セルコト後記ノ通り)及七項目ノ實行ニ取掛ル積リナル旨言明シ結局冀察首腦部ハ軍ノ要求全部ヲ承諾セルカ同參謀長トシテモ現在ニ於ケル冀察政權及第二十九軍内部ノ事情竝ニ南京側態度等ニ顧ミ且ハ細部要求事項中ニハ期限ヲ附シテ實行セシムル事困難ナルモノ多キヲ以テ誓約成立後モ尙相當ノ期間後實行ヲ開始スルコト然ルヘシトノ意見ナリキ

越ヘテ十八日午後一時宋哲元ハ張自忠ヲ伴ヒ天津偕行社ニ香月司令官ヲ訪ヒ今回ノ事件ニ關シ遺憾ノ

現行協定  
實行協定

九軍代表ト七月十一日調印セル協定第三項ニ基キ共產黨其ノ他排日取締ニ關スル具體的實行方法ニ付協定セリト發表スルニ止メタリ  
彼上ノ經緯アリテ處置ニ關シテハ營長ノ罷免、馮治安ノ譴責ハ七月二十一日迄ニ實行セラレ又七項目ニ關シテハ排日分子トシテ軍ヨリ暗黙ニ指摘セル内ノ一名タル北平社會局長雷嗣尙ハ七月二十一日發令アリ北平市内ノ馮治安部隊モ二十二日ヨリ移駐ヲ開始シ（尤モ馮部ノ撤退ハ抄々シカラス二十八日夜半始メテ完了セルコト後記ノ通りニシテ又交替部隊ハ結局趙登禹ノ二箇旅トスルコトニ天津軍張自忠間ニ於テ約束セラレ右ハ二十九日保安隊ニ改編セラレタリ）事態ハ稍々平靜ニ歸セルヤニ認メラレタリ

其ノ間國民政府參謀本部次長熊斌ハ二十三日南京ヨリ着平以來冀察首腦部ト打合ヲ續ケ二十五日夕南下セルカ右熊ノ北平訪問ノ使命ハ蔣介石ノ命ニ依リ現地協定ハ中央ニ於テ之ヲ承認スルニ付現地ニ於テハ出來得ル限リ之ヲ實行ニ移スヘキ旨ヲ宋哲元ニ傳達スルニアリ熊到着前ハ宋ハ十九日ノ細目協定ヲ實行スルノ決心付カス大イニ苦慮セルモ熊ヨリ責任ハ蔣カ引受クルニ付心配ナク實行スヘキ旨説キタリトノ情報モアリタルカ（熊斌同行ノ海軍部楊宜誠ノ中原武官ニ對スル内語）現地二十九軍部隊ハ依然蘆溝橋及其ノ附近ヨリ屢々斥候ヲ以テ我カ部隊直前ニ進出シ射撃ヲ爲シ又蘆溝橋附近ニ於ケル保安隊ハ永定河西岸ニ在ル支那軍隊ト聯絡シ盛ニ蘆溝橋附近ニ陣地ヲ構築シ誠意ノ見ルヘキモノナカリ

上解ノ北

郎坊事件  
廣安門事

キ然ルニ二十五日郎坊附近ニ於テ我軍用電線障害アリタルヲ以テ支那側ニ其ノ旨通告ノ上之カ修理ノ爲通信隊ノ一部ヲ歩兵一中隊ノ援護ノ下ニ派遣セル處右部隊ハ同地駐在ノ支那軍ノタメ射撃セラレ更ニ二十六日ニハ居留民保護並其他目的ノ爲廣安門ヨリ北平ニ入城セントスルヤ支那側ハ大隊ノ約三分ノ二カ入城セル時突然閉鎖シ手榴彈機關銃等ヲ以テ猛射シ我ニ多大ノ損害ヲ加ヘタリ

又二十七日午前通州ノ二十九軍一箇大隊不法射撃ヲ開始シ我軍之ヲ攻撃シ飛行機ノ爆撃ト共ニ之ヲ四散セルモ我方相當ノ死傷アリ更ニ同方面ニ於テハ二十八日朝來支那軍ノ攻撃激シク微弱ナル我殘留部隊ハ甚シキ壓迫ヲ受ケタル趣ナリ之ヨリ先二十六日午後三時三十分支那側ノ重ナル不信行爲ニ鑑ミ松

松平機關  
長ノ通告  
最後通告

井北平機關長ハ左ノ趣旨ノ香月司令官通告ヲ宋哲元ニ手交セリ  
郎坊事件ハ支那ノ挑戰的態度ノ緩和セサルニ基因ス仍テ速ニ蘆溝橋及八寶山附近ニ配置セル第三十七師ヲ二十七日正午迄ニ長辛店ニ後退セシメ又北平城内ニ居ル第三十七師ヲ北平城内ヨリ撤退シ西苑ニ在ル第三十七師ノ部隊ト共ニ先ツ平漢線以北ノ地區ヲ經テ二十八日正午迄ニ永定河以西ノ地區ニ移シ爾後引續キ是等軍隊ノ保定方面ヘノ輸送ヲ開始スヘシ

大事件ノ概

然ルニ右ニ對シテハ冀察側ハ二十六日夜張繼潘ヲ派シ我方ノ要求全部ヲ容ルヘク更ニ二十七日朝實行方申出タルカ軍側ニ於テハ右通告ニ對シ別ニ回答ヲ要求シ居ラサリニ付右申出ニ對シテハ別段考慮ヲ加ヘス期限迄ニ實施ヲ完了スルヤ否ヤノ點ヲ重視シ居リタル處前記廣安門事件ノ發生ヲ見ルヤ我軍

0007

S 1.1.1.0 - 27 3936

S 1.1.1.0 - 27 3937

第一線ノ將士ヲ痛ク憤激セシメ天津軍ニ於テハ右松井通告期限ノ二十八日ヲ俟タス二十七日夜明ヲ期シ廣安門ノ占領ノミナラス蘆溝橋、西苑ヲ攻撃スルコトナリ早クモ命令ノ發出ヲ見タル由ナルカ我  
方ニ於テ二十八日ノ期限ヲ一方的ニ破棄スルハ對外關係上面白カラサルノミナラス現地協定ヲ水泡ニ  
歸シ二十九軍ヲ表面敵トスル惧アリシヲ以テ北平森島參事官ト特務機關トノ話合ノ結果同機關ヨリ軍  
司令部ヨリ少クとも期限迄俟ツ様意見申シ結局二十七日朝ノ攻撃ハ中止シ二十八日早朝ヨリ總攻撃  
ヲ開始スルコトナレリ而シテ一方軍カ前記最後通牒ノ期限ヲ俟タスニ行動スルコトニ付疑問ヲ有ス  
ル向ニ對シテハ十分事態ヲ説明スルノ手配ヲ整ヘ北平居住ノ邦人ヲ先ツ公使館區域ニ避難セシメタル  
後前記總攻撃ハ豫定ノ通り南苑沙河鎮等北平周邊ニ於テ開始セラレタリ

### 第三節 耶坊事件並廣安門事件

耶坊事件

#### 一、耶坊事件

天津北平間ノ我軍用電線ハ事變發生以來屢々支那側ノ爲切斷セラレタルカ二十五日耶坊驛附近ニ障害  
アリシヲ以テ軍ハ支那側ニ其ノ旨通知ノ上同日午後十一時右電線修理中其ノ掩護ニ當リタル我軍約一  
ケ中隊ハ附近ノ第三十八師所屬約一ケ團ヨリ砲撃ヲ受ケタルニ端ヲ發シ二十六日朝迄ニ數回戦闘ヲ行  
ヒ同日早朝飛行機ハ爆撃ヲ行ヒ支那側ニ對シ固安永清方面へ撤退ヲ要求セルモ結局午前八時支那軍ヲ

廣安門事件

四散セシメタルカ同事件ニ於テ我軍ハ死傷十四名ヲ出セル趣ニシテ二十六日ノ松井機關長ノ宋哲元ニ  
對スル通告ハ右事件直後發セラレタルモノナリ

#### 二、廣安門事件

北平軍側ニ於テハ居留民保護並三十七師撤退ニ關スル交渉ニ資スル爲北平駐屯中ノ軍ヲ増加スルヲ適  
當ト認メ廣部部隊約一個大隊ヲ北平ニ呼寄スコトヲ豫メ支那側承諾ノ下ニ二十六日午後約四十臺ノ  
「トラク」ニテ日本兵營ニ入ル爲廣安門ヨリ入市セントスルヤ同門警備中ノ支那軍ニ於テハ城門ヲ閉  
鎖シ入市ヲ阻止セリ我方ニ於テ折角交渉ノ結果開門セルヲ以テ入市ヲ開始セル處我部隊三分ノ二ヲ通  
過セル際突如支那兵機關銃手榴彈ヲ以テ攻撃セルニ依リ我方應戰シ我方ニ於テハ新聞記者ヲ含ム相當  
ノ死傷ヲ出セリ(戰死二名、負傷十四名其他非戦闘員中通譯一名戰死シ、櫻井願門、同盟寫真班員並  
新聞記者各一名、冀東政府日本人囑託三名各何レモ重傷ヲ負ヘリ)我方ニ於テハ特務機關ヨリ寺平  
輔佐官、笠井願門等現地ニ急行セシメ折衝ノ結果城内支那部隊ヲ集結セシメ翌二十七日午前二時頃我  
軍一部(百二、三十名)ハ日本兵營ニ入レルカ(當時支那側ハ廣安門ニ於テ約半數ノ日本兵ヲ入市セ  
シメ二十七日中ニ殘部ヲ入市セシムルコトヲ誓約セル由)右廣安門事件ノ發生ハ我軍第一線ノ將士ヲ  
痛ク憤激セシメ事件擴大ノ直接ノ原因トナリタルコトハ前述ノ通ナリ

S 1.1.1.0 - 27

3939

S 1.1.1.0 - 27

3938

0008

第四節 平津地方支那軍掃蕩(七月下旬)

松井機團  
由行動通

安民布告

二十九  
年

軍ハ二十八日早朝ヨリ全カヲ擧ケテ北平天津附近ノ支那軍ヲ膺懲スルニ決シ二十八日午前二時天津軍司令官代理松井北平特務機關長ハ電報ヲ以テ秦德純ニ對シ「第二十九軍ノ不信及挑發的行爲就中廣安門ニ於ケル支那軍ノ欺瞞行動ニ鑑ミ軍ハ自由行動ヲ執ルニ決セル」旨通牒スルト共ニ「北平城内ニ戰禍ノ及ホササル爲即時支那側カ全部ノ軍隊ヲ城内ヨリ撤退スルコト」ヲ勸告スル一方戰闘ニ先立テ安民ノ布告ヲ發シ「軍ハ決シテ河北ノ民衆ヲ敵視スルモノニ非ス列國ノ權益ハ之ヲ尊重シ其ノ居留民ノ生命財產ノ安全ヲ期スルハ勿論北支領有ノ意圖ナキコト」ヲ明ニセリ

- 一、北平城内第三十七師(約三團) 第三百三十二師(二團) 第三十八師及石友三保安隊ノ一營其他公安隊
- 二、南苑兵營第三十八師(一團) 其他
- 三、北平北方、通州方面第三十九獨立旅
- 四、蘆溝橋方面第三十七師、第三百三十二師ノ主力
- 五、天津及楊村、郎坊方面第三十八師主力

我軍優勢

- 一方我軍ニ於テハ軍司令部ヲ天津ニ置キ
- 一、川岸兵團ハ團河村(南苑ノ南方五軒) 附近ニ兵力ヲ集結シ南苑ノ敵ニ對シ攻撃ヲ準備シ一部ノ兵力ヲ以テ黃村、天津間ノ鐵道ヲ確保シ
- 二、河邊兵團ハ豐台確保ノ爲一部ヲ殘置シ主力ヲ以テ南苑兵營西北端ニ向ヒ攻撃ヲ準備シ(但通州部隊ハ通州、小梅子、南苑兵營東北端ノ方向ニ前進シ北平―馬駒橋ノ線ニテ攻撃ヲ準備シ)
- 三、北平部隊ハ居留民ノ保護ニ任シ
- 四、鈴木兵團ハ衛黨、大平莊(運糧河南側)ノ線ニ進出シ西苑方面ニ攻撃ヲ準備シ
- 五、酒井兵團ハ沙河鎮南方地域區(平綏鐵道上北平西北約五里)ニ攻撃ヲ準備シ
- 六、集成飛行團ハ主力ヲ以テ西苑ヲ攻撃シ
- 一部ヲ以テ南苑、北苑及長辛店ノ情況ヲ搜索監視セシメ
- 七、航空兵團ハ到着ニ從ヒ地上兵團ノ掃蕩戰ニ參加セシメ
- 八、川岸兵團ノ步兵第三大隊野砲一中隊ハ軍豫備トシテ天津ニ位置セシムルコトニ決シ二十八日拂曉ヨリ北平周邊ノ支那軍ニ對シ攻撃ヲ開始セリ
- 即チ北平南方ニ於テハ川岸、河邊兩兵團ハ飛行隊協力ノ下ニ早曉ヨリ南苑附近ノ第三十八師ニ對シ東西南ノ三方ヨリ攻撃ヲ開始シタルカ支那軍ハ午前八時半頃ヨリ逐次北方ニ退却ヲ開始シタルニ依

北平南方  
地區

攻撃開始

S 1.1.1.0 - 27

3941

S 1.1.1.0 - 27

3940

0009

北平地方  
及西方地

リ河邊兵團主力ハ馬村附近ニ突進シ敵ノ退路ヲ遮斷シタル爲支那軍ハ北平南側地域區ニ於テ大打撃ヲ受ケ無數ノ死者ヲ遺棄シテ北平城内ニ遁入セルカ川岸兵團ハ午後三時完全ニ南苑ヲ占領セリ  
北平北方ニ於テハ酒井兵團ハ午前十時半沙河鎮ニ據レル敵ヲ擊退西苑ニ向ヒ險惡ナル道路ニ悩マナレツ前進夕刻萬壽山北方地區ニ達シ鈴木兵團ハ清河鎮南方地區ニ進出圓明園及西苑ニ對シ攻撃セリ

天津方面

天津方面ニ於テハ二十八日夕敵ノ一部隊天津ニ夜襲ストノ情報アリタルヲ以テ警戒中ノ處二十九日午前一時頃ヨリ軍司令部、大倉農場、停車場、糧秣集積所等ニ夜襲ヲ受ケタルモ午前四時半頃擊退(三十一日迄ニ市ノ殘敵ヲ掃蕩)セルカ(軍司令部ニハ損害ナシ)本夜襲ニ參加セルハ第三十八師ノ第二百二十八團及天津保安隊ノ一部ナリシ模様ナリ

大沽方面

大沽方面ニ於テハ二十八日午前八時十五分我カ部隊ハ敵ノ射撃ヲ受ケタルヲ以テ陸海軍協同シテ直ニ之ニ應戰十一時四十五分頃敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ  
其後酒井兵團ハ二十八日夜襲ヲ以テ寶中一寺山(西苑西北區二里)ヲ占領シ二十九日引續キ敵ヲ擊破シ南進シ夕刻迄ニ主力ヲ以テ黃村(北平西方十四軒)附近ニ一部ヲ以テ衙門口ニ進出シ同シク二十九日河邊兵團ハ午後六時宛平城ヲ占領シ三十日長辛店ニ進出川岸兵團ハ南苑西側地區ニ兵力ヲ集結シ、鈴木兵團ハ主力ヲ以テ北平西側地區ニ進出シ八月一日北苑ノ獨立第三十九旅ヲ武裝解除シ茲

其後ノ作

宛平城占領  
北平地方  
了ノ掃蕩完

0010

3942

S 1.1.1.0 - 27

通州事件

ニ北平周圍ノ敵ノ掃蕩ヲ概テ完了セルカ一方天津及塘沽附近ノ掃蕩モ三十一日迄ニ大部分之ヲ完了セリ  
斯テ二十八日宋哲元、秦德純、馮治安及張維藩等ハ北平ヲ逃亡シ冀察政務委員會委員長同綏靖公署主任及北平市長ノ職務ハ張自忠ニ於テ代行スルコトナレルカ(其後八月五日ニ至リ張ハ辭職シ齊燮元等五名ノ常務委員ニ後事ヲ託セルカ右常務委員會ハ八月二十日ニ至リ委員會閉鎖方決定同會ハ北平市地方維持會ニ於テ接收セラル尙宋哲元ハ八月三日保定ニ於テ下野通電ヲ發セリ)北平城内ノ第三十七師及第三百二十二師ノ各部隊ハ夫々(前者ハ我方攻撃開始後ノ二十八日午後十時自發的撤退ヲ申出タルモノナリ)七月二十八日及八月二日夫々南方ニ撤退シ北平城内ノ治安ハ公安局員一萬二千ニテ維持セラレタルカ七月三十日江朝宗ヲ主席トシ冷家驥等六名ヲ委員トスル北平市地方維持會成立シ次テ八月八日河邊兵團ハ北平市ニ入城セリ他方八月一日高凌蔚ヲ委員長トシ委員十名ヨリナル天津治安維持會成立セリ又通州ノ冀東政府ハ七月二十九日通州事件以來我守備隊ニ依リ占領セラレ一時解散セルヲ以テ取敢ヘス池宗墨ニ於テ長官代理トナリ天津ニ於テ二日臨時辦事處ヲ設ケ職務執行中ノ處九日事務ヲ唐山ニ移轉セリ

尙前記軍ノ平津地方掃蕩進行中通州ニアリシ冀東保安隊第一、第二總計約三千ハ二十九日早曉突如兵變ヲ起シ通州ノ我守備隊ヲ包圍シ終日交戦セリ右第一、第二總隊ハ于學忠ノ舊部下ヲ收編セシモ

二三

3943

S 1.1.1.0 - 27

ノニシテ今次叛亂ハ支那側ノ煽動ト支那軍戰勝ノ「デマ」ニ幻惑セラレタル結果ナリシモノノ如シ  
 然ルニ右叛亂部隊ハ三十日早朝河邊兵團ノ一部救援ノ爲急行シタル外二十九日來ノ飛行機爆撃ニ依  
 リ遂ニ包圍ヲ解キ通州城北側ニ集合次テ逃走セルカ内三百ハ三十日北平附近ヲ逃走中我軍ノ爲撃破  
 セラレタリ

一四

軍ハ次テ城内ヲ掃蕩シ冀東政府ハ守備隊ニ於テ占領セリ右叛亂事件ニ於テハ更ニ同地特務機關襲撃  
 セラレ又多數ノ居留民慘殺セラレタル次第ナリ(事件解決ニ關スル詳細ハ亞二調書参照)

0011

S 1.1.1.0 - 27 3944

第二章 帝國政府ノ方針措置並南京及東京ニ於ケル日支間折衝

第一節 中央ニ於ケル方針並措置

- 一、事件處理方針ニ關スル臨時閣議
- 事件發生スルヤ政府ハ七月九日臨時閣議ヲ開催シ今次事件ノ處理方針ヲ左ノ通決定セリ
- (一) 今次事變ノ原因ハ全ク支那側ノ不法行爲ニ基クコト
  - (二) 我方トシテハ事件不擴大ノ方針ヲ堅持スルコト
  - (三) 支那側ノ反省ニ依ル事態ノ圓滿收拾ヲ希望スルコト
  - (四) 若シモ支那側ニ反省ナク憂慮スヘキ事態ヲ招來スル危機ヲ見ルニ至ラハ我方トシテハ適切迅速ニ機宜ノ處置ヲ講スルコト
  - (五) 各關係ハ何時ニテモ臨時閣議ノ召集ニ應シ得ル様待機スルコト
- 二、事件處理ニ關スル第一次訓電
- 七月十一日午前政府ハ在支大使ニ對シ我方ハ固ヨリ進テ事ヲ荒立ツルノ意ナキモ支那側ノ態度如何ニ

S 1.1.1.0 - 27 3945



依リテハ我方トシテモ重大決意ノ己ムナキニ至ルヘキニ付速ニ時局ヲ收拾スル様支那側ニ申入方訓電  
セリ(「東京ニ於ケル折衝ノ項」参照)

三、陸軍省閣議請議案ノ決定(七月十一日)

次テ十一日政府ハ事態ノ重大性ニ顧ミ緊急閣議ヲ開催陸軍省閣議請議案ヲ決定セルカ其ノ要旨左ノ如  
シ  
今次事件ハ全ク支那側ノ計畫的武力抗日ナルコト最早疑ノ餘地ナシ思フニ北支治安ノ恢復ハ最モ迅速  
ヲ要スルモノアルノミナラス支那側カ不法行為ハ勿論排日毎日行爲ニ對スル謝罪ヲナシ及今後斯ル行  
爲ナカラシムル爲ノ適當ナル保障ヲ得ルノ必要アリ即チ軍ハ今ヤ豫メ關東軍及朝鮮軍ニ於テ準備シテ  
ル部隊ヲ以テ急遽支那駐屯軍ヲ増援スルト共ニ内地ヨリモ所要ノ部隊ヲ動員シテ之ヲ北支ニ急派スル  
ノ要アリ而シテ東亞ノ和平維持ハ帝國ノ常ニ念願スルトコロナルヲ以テ今後共局面不擴大現地解決ノ  
方針ヲ堅持シテ平和的折衝ノ望ヲ捨テス又前記支那側ノ謝罪及保障ヲナサシムル目的ヲ達シタルトキ  
ハ速ニ派兵ヲ中止セシムルコト勿論ナリ

四、現地協定確認並軍事行動停止方期限附要求ニ關スル申入方訓電

現地ニ於ケル交渉ノ模様ハ前記ノ通りナル處十六日參謀本部ヨリ當方ニ對シ三條件履行ニ關スル現地  
支那側ノ態度煮切ラサルニ加ヘ南京側ニ於テ續々中央軍ヲ北上セシメ居ル現狀ニモ鑑ミ此ノ際在支大

使ヨリ南京政府ニ對シ期限ヲ限リ(イ)七月十一日ノ現地協定確認方竝ニ(ロ)南京側ノ軍事行動ノ即時  
停止方嚴重要求セシムルコトト致シ度申越セルモ(イ)ノ確認ノ問題ニ付テハ結局軍側ニ於テモ單  
ニ現地協定ノ實行ニ對スル南京側ノ妨害ヲ阻止スル意味ノ警告ヲ發スルコトニ納得セルカ(ロ)期限ヲ  
附シテ警告ヲ發スル件ニ關シテハ當方ヨリ右ハ結局ノ處最後通牒ト異ナラス南京側ニ於テ軍事行動ヲ  
停止セサル場合ハ遂ニ中央軍トノ全面的衝突トナル惧モアリ反對ナリト強硬主張セルモ軍側ヲ納得セ  
シムルニ至ラス結局右趣旨ヲ在支大使ヲシテ南京側ニ申入レシムルコトナレリ(右申入ニ就テハ別  
項「南京ニ於ケル交渉」参照)

五、事態ノ擴大

然ルニ其ノ後現地ノ狀勢漸次逼迫シ來リ七月二十日ノ閣議ニ於テ萬一ノ必要ニ備フル爲内地三ヶ師團  
ニ對シ動員準備方決定ヲ見タルカ其後即坊事件廣安門事件等支那側ノ不信行爲相續イテ發生シ二十七  
日遂ニ動員令ノ發出ヲ見タル次第ハ前述ノ通りナリ

第二節 南京ニ於ケル日支間折衝

一、七月八日夕刻外交部庶務科長日高參事官ヲ來訪シ蘆溝橋事件ニ關シ秦德純ヨリノ電報報告ニ依レハ  
昨夜同方面ニ於テ演習中ノ日本兵二名行衛不明トナレル爲日本軍ハ宛平城内ヲ搜查セントシ支那軍

之ヲ拒ミタルニ日本側ヨリ發砲シ支那側ハ應射セザリシカ死傷者百餘名ヲ生シタル趣ノ處原因ノ如何ハ別トシテ事態擴大ヲ避クル見地ヨリ日本軍ノ自重ヲ望ミ度豐臺ニ兵力集中ストノ報モアリ切實考慮願度シト申出タルニ依リ日高參事官ヨリ事件ノ發端、推移等ニ關シ適當説明ヲ加ヘタル上日本側ニ於テハ故意ニ事態ヲ惡化擴大スル意圖ナク萬事ハ支那側ノ出様如何ニ係ルモノナル旨説示シ置ケル趣ナリ

二、九日午後日高參事官他用ヲ以テ外交次長陳介ヲ往訪セル處陳ヨリ八日晝ノ申入ヲ「コンファーム」シ且(イ)支那側ノ報告ニ依レハ本件ニ關シ非ハ全然日本側ニアリ又(ロ)支那側ハ多數ノ死傷者ヲ出シタルニ付將來損害賠償等ノ要求ヲナスコトアルヘキヲ留保スト述ヘタルニ付日高ヨリ右申出ハ其ノ儘之ヲ了承スルヲ得ス非ハ全然支那側ニアリ日本側ニモ死傷相當アルニ付將來右ニ付寧ロ日本側ヨリ改メテ何分ノ申入ヲ爲スヘキコトモアルヘキ旨留保スヘシト斷言セル由ナリ

三、十日夜十一時半外交部董科長ヨリ日高參事官宛電話ヲ以テ北寧鐵路ヨリノ報告ニ依レハ奉天ヨリ軍隊十列車出動シ二列車ハ既ニ山海關ニ到着セル趣ナルカ右ハ事態不擴大ノ見地ヨリ憂慮ニ堪ヘス累次申出ノ趣旨ニ依リ斯ル軍事行動ヲ停止セラレ度旨申越セリ右ニ對シ日高參事官ヨリ現地ノ事實ヲ告ケ現場ニ於ケル戰鬪行為ノ停止カ第一ノ急務ナル旨答ヘタル處董ハ八日同參事官ト會談後直ニ冀察政務委員會及第二十九軍ニ對シ軍事行動ヲ執ラサル様申送レルカ本件ニ就テモ早速申送ルヘシ

外交部  
日附略  
支那側  
抗議

8 1.1.1.0 - 27 3948 0013

日附略  
支那側  
抗議

四、蘆溝橋事件ニ關シ十日午後七時外交部ヨリ節略(別紙第一號)ヲ以テ支那側ノ正當防衛ヲ主張シタル上日本大使館ニ於テハ早速北支日本軍當局ニ電報ヲ發シシメタル日本軍ヲ直ニ原地ニ撤退セシメ以テ合法的解決ヲ待タシムルト共ニ外交部ハ本事件ニ關スル一切ノ合法的要求ヲ留保スル旨抗議越セリ

我方回答  
右ニ對シ在支大使ヨリ十四日附公文(別紙第二號)ヲ以テ事件ハ我方ニ於テ自衛上之ニ應戰セサルヘカラザルニ至リタルモノニシテ北支ニ於ケル我軍隊ノ駐屯及演習ハ條約上ノ權利ニ基クモノニシテ本事件ノ發生ハ全然支那側ノ責任ニ歸スヘキモノナルニ鑑ミ支那側申越ノ留保ハ我方ニ於テハ承認スヘキ限リニ非ラサル旨ヲ以テ應酬セリ

我方第一  
五、事件發生スルヤ政府ハ在支大使ニ對シ我方ハ固ヨリ進テ事ヲ荒立ツルノ意ナキモ支那側ノ態度如何ニ依リテハ我方トシテモ重大決意ノ已ムナキニ至ルヘキニ付速カニ時局ヲ收拾スル様支那側ニ申入方訓電セルコト前述ノ通りナル處右ニ基キ十一日在支日高參事官ハ外交部次長陳介ト會見セルニ同次長ハ支那側ハ出來得ル限リ和平的解決ヲ圖リ度キ意圖ナルカ日本軍カ從來北支ニ在ル以上ノ兵力ヲ陸續増援スルニ於テハ支那側モ自衛上何等カノ措置ニ出ツルコトモアルヘシトテ我軍隊ノ出動停止ヲ要望セルニ付同參事官ヨリ訓電ノ次第ヲ嚴重申入レ置キタリ同參事官ハ更ハ十二日在南京帝

8 1.1.1.0 - 27 3949

日高參事  
官王羅惠  
ト合見

現地解決  
不承認ニ  
關スル外  
交部節略

外交部十  
略六日附節

我方回答

國陸海軍武官ト同行外交部王羅惠ト會見ノ上更ニ我方方針ヲ申傳ヘタルニ同部長ハ支那側ハ事件ヲ擴大スルノ意思ナキ處報道ニ依レハ日本側ハ關東軍及朝鮮軍ノ外内地ヨリモ部隊ヲ出動セシメタル由ニテ右ハ事態ヲ局限スルノ趣旨ニ合致セス(1) 双方ノ軍隊ヲ駐屯地ニ歸還セシムルコト(2) 双方共新ニ部隊ヲ増援セサルコト緊要ナル旨力説セリ次テ日高參事官ヨリ今次事件ニ付戰鬥行為中止ノ申合成立セル場合中央ニ於テ右現地ノ協定ヲ否認又ハ破壞スルニ於テハ事態ヲ重大化セシムルコトトナルヘキ處支那側ニハ右ノ如キ意思ヲ有セスト認ムルカ如何ト質シタルニ同部長ハ之ヲ首肯セリ(尤モ後刻外交部ヨリ七月十二日附節略(別紙第三號)ヲ以テ現地ニ於テ既ニ議定セラレ或ハ將來成立スルコトアルヘキ如何ナル了解又ハ協定モ中央ノ承認ヲ經テ初メテ有效ナルヘシトノ趣旨ヲ申越セリ)尙中央軍ノ動員及北上等ニ關スル我方質問ニ對シ同部長ハ明言ヲ避ケタルモ否定セス又右會談ノ際我方ヨリ排日取締、居留民ノ保護、支那紙ノ抗日的筆致等ニ付テモ申入レ置キタリ

六、外交部ハ十六日附節略(別紙第四號)ヲ以テ事件ノ發生ノ責任ハ全然日本側ニ在リ又蘆溝橋一帶ニ於テ演習シタルコトハ明ニ條約違反ナリトシ今同中國増派ノ日本軍ハ即時全部之ヲ引揚ゲシムルト共ニ事件ヲ發生セシメタル日本軍ノ原地撤退方並ニ事件ニ關スル一切ノ要求ノ權ヲ留保スヘキ旨申越セリ

右ニ對シ我方ヨリ七月二十八日附公文ヲ以テ(別紙第五號)蘆溝橋附近ニ於ケル帝國軍隊ノ演習ハ

6 1.1.1.0 - 27 3950

0014

大城戸武官  
官何協定  
不承認ニ  
關スル外  
交部節略  
入停止行動

條約上當然ノ權利ニシテ尙今般帝國軍隊ノ派遣ハ居留民ノ保護及帝國カ駐兵權ヲ有スル地點ニ駐屯スル我軍ノ安全上増援ヲ行ヒタルモノニ外ナラサル旨回答セリ

七、十七日在南京大城戸武官ハ訓令ニ基キ軍政部長代理タル曹次長ヲ往訪南京側カ梅津、何應欽協定ニ違反シテ中央軍ヲ北上セシメ又ハ航空兵力ヲ行使セントスル態度ヲ執ル場合ハ日本軍ハ其ノ適當ト信スル措置ニ出スルコトアルヘク因テ生スルコトアルヘキ責任ハ支那側ニ在ル旨通告セリ

八、十六日參謀本部ヨリ當方ニ對シ三條件履行ニ關スル現地支那側ノ態度蒸エ切ラサルニ加ヘ南京側ニ於テ續々中央軍ヲ北上セシメ居ル現狀ニモ鑑ミ在支大使ヨリ南京政府ニ對シ期限附要求方申越ノ經緯ニ關シテ別項(中央ニ於ケル方針並措置參照)ノ通りナル處右經緯ノ結果本省ヨリ日高參事官ニ對シレ

帝國政府ハ十一日聲明ノ通飽迄事態不擴大ノ方針ヲ堅持シ平和的折衝ノ望ヲ捨テス隱忍自重現地ニ於テ解決方努力シツアルニ不拘國民政府ニ於テハ徒ニ挑戰的行動ヲ繼續シ居ルノミナラス各種ノ手段方法ヲ以テ冀察當局ノ解決條件實行ヲ妨害シ以テ北支ノ安定ヲ脅シツアルハ帝國政府ノ甚タ遺憾トスル所ニシテ此ノ儘推移スルニ於テハ遂ニ重大不測ナル事態ノ發生セサルナキヲ虞ル次第ナリ國民政府ノ方針モ亦事態ノ不擴大ニアルコトハ王外交部長ノ累次言明セル次第ニモアリ帝國政府ハ國民政府ニ於テ眞ニ此ノ如キ希望ヲ有スルニ於テハ此カ實現ノ爲汎有挑戰的言動ノ即時停止並

8 1.1.1.0 - 27

3951

我方申入

支那側同

現地協定  
支那側  
中央軍

ニ現地當局ノ解決條件實行ヲ妨害スルカ如キコトナカラント要請スル旨嚴重申入レ方訓令セリ  
右ニ基キ十七日高參事官ハ王外交部長ト會見前記本省訓令ノ趣旨ヲ申入レ右ニ對シテハ或ハ今直  
ニ返事ヲ期待シ得サルヘキモ十九日ニハ必ス何分ノ的確ナル回答ヲ與ヘラレ度キ旨申入レルト共ニ  
同趣旨ノ十七日附覺書(別紙第六號)ヲ交付セルカ(尙右我方覺書ハ英譯ノ上英、米大使館係官ニ  
内密交付セリ(別紙第七號)右ニ對シ十九日外交部董科長外交部長ノ命ニ依リ同參事官ヲ來訪左ノ  
如キ備忘録(別紙第八號)ヲ讀上ケタリ

支那政府ハ事件不擴大ノ方針ヲ堅持シ居レルニ不拘日本ハ大部隊ノ軍隊ヲ我河北省内ニ派遣シ今ニ  
至ルモ停止セス支那ハ右情勢ノ下ニ於テハ自衛ノ爲適當ナル準備ヲ爲ササルヲ得ス支那政府ハ一ノ  
確定期日ヲ定メ此ノ期間内ニ雙方同時ニ軍ヲ移動ヲ停止シ又既ニ派遣セル武裝軍隊ヲ原地ニ撤回  
セシコトヲ提議ス若シ地方的性質ヲ有シ現地解決ヲナスヘキモノアラハ是亦必ス中央政府ノ許可ヲ  
受クヘシ

仍テ同參事官ハ二十日再ヒ王寵惠ヲ往訪右備忘録カ十七日ノ我方申入ニ對スル回答ナル旨ヲ確メ備  
忘録中ニ記述セル双方同時ニ軍隊ノ移動ヲ停止ストアルハ我方申入レタル挑戰的行動ノ即時停止ニ  
對スル直接ノ答トハナリ居ラサル點ヲ指摘セルニ王部長ハ支那側ハ日本ニ挑戰スル氣持ナシ軍隊ヲ  
北上セシメタルハ全ク萬一ヲ考慮セルモノニシテ戰ヲ挑マンシカ爲ニ非ス又一定期日ヲ定メ云々決

0015

8 1.1.1.0 - 27 3952

17

我方ノ意

高ノ私見

時局收拾  
工作ニ關  
スル高  
宗武會

シテ時期遅延ノ底意ニ出スルモノニ非サル旨述ヘ更ニ地方的解決條項ハ中央ノ許可ヲ經タル以上其  
ノ實行ニ異議ナキ旨附言セルモ同參事官ヨリ右ハ回答トシテ不明瞭且不足ナルコトヲ指摘シ現地ニ  
於テ論議セラレ居ル條項ハ決シテ中央ノ受諾ヲ難シトスルモノニ非サル次第ヲ強調シ置ケリ

於テ論議セラレ居ル條項ハ決シテ中央ノ受諾ヲ難シトスルモノニ非サル次第ヲ強調シ置ケリ

九、二十五日高參事官高宗武ト會見セル際高ハ同人ヨリ蔣介石ニ對シ日本ノ真意ハ事件自體ノ解決  
以外他意ナキコトヲ説明シ大體蔣モ了解シタル模様ニテ同人ニ於テ何等解決辦法考究方引受ケタル  
次第ナリト前提シ現地協定ニ付テハ宋哲元ヨリ報告ハアリタルモ細目ハ全然不明ナル處高ノ私見ニ  
依レハ中央ニ於テ特ニ反對スルカ如キコトハ多分ナカルヘシト想像シ差支無カルヘシト述ヘ結局問  
題ハ如何ニシテ兩軍ノ撤退ヲ行フカニアル處全然同人限リノ考ヘトシテハ

(イ) 日本側ニ於テ事件ハ解決シタリト認ムルニ依リ撤兵スル旨ヲ自發的ニ聲明シ之ヲ實行スルコト  
左スレハ中央軍モ自然撤兵スヘク蔣介石ニ於テモ日本側ノ公正ナル真意ヲ了解シ將來ノ日支關係  
ニ一轉機ヲ來シ得ルヤニ思ハル併シ本案ハ日本側ニ於テ實行ヲ難シトセラルナラント思ハルルニ  
付然リトセハ

(ロ) 双方同時ニ撤退ヲ協定實行スルコト  
トセハ如何ト述ヘタルカ日高參事官ハ現地協定ノ履行ノ確信ヲ得タル上ハ増派部隊ヲ撤收スルコト  
ハ勿論ナルカ中央軍力撤退セザル限リ現地協定履行ノ見据ヘ付キ事態平靜ニ歸シタルモノトシテ日

8 1.1.1.0 - 27 3953

此直致...  
 張...  
 下...  
 高...  
 陳...  
 入...  
 陳...  
 入...  
 陳...  
 入...

本増援軍ノ撤退ヲ實行シ得ル階梯ニ達スルコト能ハサル點ハ注意ヲ要スヘク又若シ第一案ノ如ク日本側ニ於テ自發的ニ撤兵ノ聲明ヲナシタル場合ニハ支那側ニ於テ進ンテ中央軍ヲ南下セシメ日本側ハ右ノ事實ニ鑑ミ現地協定履行ノ見据ヘ付キ不安ナシト認メ撤兵ヲ實行スル段取トスルコト絶對必要ニシテ日本軍ノ聲明前ニ支那側ヨリ日本軍ノ撤退要求ノ申入ヲナスカ如キコトアラハ全部打毀シタルヘキ旨ヲ説キタルニ高ハ何レモ能ク了解セルカ前記高ノ私案ハ何等蔣介石ニ話シ居ラサル由ニテ高ニ於テ更ニ對策研究スル旨述ヘタリ

然ルニ高宗武ハ七月二十九日上海ニ於テ我陸海軍武官ニモ會見シ北支ノ重大性ヲ強調セラレ同日夜行ニテ赴寧セルカ北支ノ重大變化ニ鑑ミ撤兵試案位ニテハ解決不可能トナル旨洩セル由ナリ

十日高參事官外交部次長陳介ト會見ノ際陳ヨリ支那政府ハ宋哲元ト日本軍トノ協定ニ反對セザルコトトナリタルニ付テハ日本側ニ於テ眞ニ事件不擴大ノ方針ヲ堅持スルナレハ過般王部長ヨリ申出タル双方同時撤兵案ニ對シ考慮セラレ度シト言ヘルニ付日高參事官ヨリ右提案ニ付テハ既ニ七月二十日及二十一日兩度許大使ト會談ノ際外務大臣ヨリ返事アリタル通りニテ中央軍ノ北上協定ノ實施ヲ妨害スル意味ニテ日本側ノ派兵ト關聯セシムヘキモノニ非ルコトヲ力説シ且現地協定ニ對スル中央政府ノ態度ハ只今初メテ正式ニ伺ヒタル次第ナルカ今トナリテハ時期運キニ失スルカ如シト指摘シ

我方ノ重キヲ置クハ協定ノ實施ニアレハ此ノ點ニ於テ中央軍ノ北上カ問題トナル次第ヲ反覆説明セラルニ陳ハ頻リニ日本政府ニ於テ撤兵案ノ考慮方繰返ヘセリ

節 略

據報告：「本月七日夜十二時、有日軍一中隊在蘆溝橋城外演習、藉口聞有槍聲、收隊點名缺少兵士一人、日本武官松井遂妄指槍聲係駐蘆中國軍隊所發、並謂放槍者已入城中、要求立即率隊進城搜索。駐蘆中國軍隊以時值深夜、官兵均已睡眠、所云槍聲、絕非華軍所爲。且日軍在中國境內亦無搜查之權、當經婉詞拒絕。該武官以不得入城、即今日軍向蘆溝橋城內取包圍形勢。嗣經中國方面與日方商定雙方派員前往調查、而日方所派之寺平副官佐仍堅持入城搜查之要求。正交涉間、該城東門外及西門外日軍遂以大砲機槍向城內華軍射擊、華軍力持鎮靜、初未還擊。繼以日軍砲火益烈、華軍死亡枕藉、乃不得已爲正當之防衛。但爲避免事態擴大起見、仍極力容忍、進行交涉、迄未採取攻勢。」等語。查近來華北日本駐屯軍超越條約範圍及目的任意留駐部隊及到處隨時實彈演習之事、層出不窮、迭經外交部提出交涉、要求制止、而日方蔑視中國主權、迄不採取適當之措置。此次日軍更藉深夜在蘆溝橋演習之機會、突向該處中國駐軍猛烈攻擊、以致傷亡中國兵士甚衆、物質損失、亦甚重大、日軍此種行爲、顯係實行預定挑釁之計劃、尤極不法。外交部於此事發生之當日、已向日本大使館面提抗議、並保留一切合法要求。茲再重申抗議之旨、應請日

於此事發生之當日、已向日本大使館面提抗議、並保留一切合法要求。茲再重申抗議之旨、應請日

8 1.1.1.0 - 27 3955 8 1.1.1.0 - 27 3954 0016

本大使館迅速轉電華北日軍當局嚴令肇事日軍立即撤回原防，恢復該處事變以前狀態，靜候合理解決。外交部仍保留關於本事件一切合法之要求。希即查照見復，為荷。合即略達。

民國二十六年七月十日

中華民國外交部印

號別紙第二

外第三五號

拜啓陳者今般盧溝橋附近ニ於テ發生セル事件ニ關シ本月十日附節略ヲ以テ御申越ノ次第閱悉致候然ル處右事件ハ本月七日午後十一時盧溝橋附近ニ於テ演習中ノ帝國軍隊カ中國軍隊ノ爲盧溝橋部落及龍王廟ノ二方面ヨリ射擊ヲ受ケタルニ付我軍隊ハ直ニ演習ヲ中止スルト共ニ中國側官憲ニ對シ交渉ヲ開始シタル處翌八日午前五時半頃ニ至リ右我軍隊ハ更ニ中國軍隊ヨリ射擊ヲ受ケタル爲自衛上之ニ應戰セサル可カラサルニ至リタルモノニシテ右事件ヲ以テ我方ノ豫定セル挑撥計畫ニ基クモノナリト爲スカ如キ見解カ事實ニ反スルハ勿論北支ニ於ケル我軍隊ノ駐屯及演習ハ條約上ノ權利ニ基クモノニ有之從ツテ右事件ニ就テハ何等貴方ヨリ抗議ヲ受クヘキ筋合ノモノニ非サルノミナラス前記ノ通り右事件ノ發生ハ全然中國側ノ責任ニ歸スヘキモノナルニ鑑ミ貴外交部ノ右事件ニ對スル要求留保ハ我方ニ於テハ之ヲ承認スヘキ限ニ非サルニ付右ニ御承知相成度此段回答得貴意候 敬具

昭和十二年七月十四日

日本帝國大使館

國民政府外交部御中

號別紙第三

節 略

關於盧溝橋事件、本日上午日本大使館參事日高偕同陸軍副武官大城戸海軍副武官中原至外交部面稱。昨晚八時、在北平之中日軍事當局間已成立一種諒解、但內容不明云々。查關於盧溝橋事件、中日雙方均希望早日圓滿解決。但上述所議定或將來待成立之任何諒解或協定、須經中國中央政府核准、方爲有效。合即略達。

民國二十六年七月十二日

中華民國外交部印

號別紙第四

節 略

查此次盧溝橋事件、係因日軍挑釁而起、其責任應由日方擔負、業經外交部於本月十日略達在案。茲准日本大使館本月十四日復文、謂日軍不得已而自衛應戰、殊與事實不符。依照前清光緒二十七年七月二十五日議定書、特准外國軍隊之駐紮、僅限於列舉之地點。茲日軍在盧溝橋一帶、及其他列舉以外之地點演習、顯屬違背條約、迭經我方要求制止有案、乃日本大使館、謂演習係以條約上之權利爲根據、中國政府絕難承認。自盧溝橋事件發生以來、大批日軍陸續自各地開入河北省境、並強占車站、扣留車輛、實屬有意擴大事

二七

1.1.1.0 - 27

3957

1.1.1.0 - 27 3956 0017

二六  
態、侵害中國主權。應請日本大使館迅電日本政府、立將此次增派來華之日軍悉數撤回、並將本案肇事日軍撤回原防、恢復事件以前之狀態、靜候合法解結。至關於本案之一切要求、外交部仍保留提出之權。統希查照見復爲荷。合即略達

民國二十六年七月十六日

國民政府外交部

外第三九號

別紙第五  
拜啓陳者蘆溝橋附近ニ於テ發生セル事件ニ關シ本月十六日附節略ヲ以テ御申越ノ次第閱悉致候然ル處右事件ノ發生ハ本月十四日附書翰ヲ以テ回答致置タル通ニ有之又蘆溝橋附近ニ於ケル帝國軍隊ノ演習ハ條約上當然ノ權利ニ基クモノニ有之尙今般帝國軍隊ノ派遣ハ居留民ノ保護及駐兵權ニ基キ駐屯スル我軍隊ノ安全上増援ヲ行ヒタルモノニ外ナラス候條右ニ御承知相成度此段回答得貴意候 敬具

昭和十二年七月二十八日

日本帝國大使館

國民政府外交部御中

覺書

別紙第六  
帝國政府ニ於テハ本月十一日ノ聲明ニ於テ明ニセラレタル通飽迄事態不擴大ノ方針ヲ堅持シ平和的折

衝ノ望ヲ棄テス隱忍自重現地ニ於テ解決ニ努力シツアルニ不拘中國政府ニ於テハ挑戰的態度ヲ持續シ居ラルルノミナラス各種ノ手段ト方法トヲ以テ冀察當局ノ解決條件實行ヲ妨礙シ北支ノ安定ヲ脅威セラレツツアルハ帝國政府ノ誠ニ遺憾トスル所ニシテ此ノ儘推移スルニ於テハ遂ニ重大不測ナル事態ノ發生セサル無キヲ虞ルル次第ナリ中國政府ノ方針モ亦事態ノ不擴大ニ在ルコトハ王部長閣下ノ屢次言明セラレタル所ナルニモ鑑ミ帝國政府ハ中國政府ニ於テ眞ニ此ノ如キ希望ヲ有セララルニ於テハ之カ實現ノ爲凡有ル挑戰的言動ヲ即時停止シ並ニ現地當局ノ解決條件實行ヲ妨礙スルカ如キコト無カラントトヲ要請ス尙右ニ對シ速ニ的確ナル回答ヲ與ヘラレ度

昭和十二年七月十七日

日本帝國大使館

別紙第七號

AIDE-MEMOIRE

As was made clear in their statement of the 11th of July, the Japanese Government, firmly resolved to prevent the situation from being aggravated and still pinning their hope on the negotiations for peace, are exerting every effort with a spirit of utmost restraint and perseverance to bring about an amicable settlement of the incidents at the hands of the local

二六

8 1.1.1.0 - 27 3959

8 1.1.1.0 - 27 3958 0018

IO  
authorities concerned. It is a matter of great regret for the Japanese Government, however, that the Chinese Government not only persist in an unnecessarily provocative attitude but also are putting obstacles by all available means in the way of the Chi-Chia Political Council authorities in carrying into effect the terms for settling the incidents, thus endangering the peace and stability in North China. The Japanese Government are therefore compelled to fear that should the present situation be allowed to have its own course, it may take an unanticipated turn of extremely grave nature.

In view of the repeated assurances of His Excellency Dr. Wang Ching-hui, Minister of the Department of Foreign Affairs, that the Chinese Government also entertain the policy of preventing the situation from being aggravated, the Japanese Government earnestly desire that, if such are the real intentions on their part, the Chinese Government will, in substantiation of their avowed intentions, put an immediate stop to all their provocative actions and refrain from impeding the carrying into effect of the terms reached between the local authorities concerned for the settlement of the incidents.

Nanking, July 17th, 1937.

別紙第八

自盧溝橋事件發生後、我國始終不欲擴大事態、始終無挑戰之意。且屢曾表示願以和平方法謀得解決。乃日本政府雖亦曾宣示不擴大事態之方針、而同時調遣大批軍隊開入我國河北省內、迄今未止、顯欲施用武力。我國政府於此情形之下、固不能不作自衛之適當準備、然仍努力於和平之維持。本月十

8 1.1.1.0 - 27 3960

0019

二日外交部長接見日本大使館日高參事時、曾提議雙方停止軍事調動並將軍隊撤回原地。日方對此提議迄無表示、不勝遺憾。現在我國政府願重申不擴大事態與和平解決本事件之意、再向日本政府提議兩方約定一確定之日期、在此日期雙方同時停止軍事調動並將已派武裝隊伍撤回原地。日方既抱和平折衝之希望、想必願意接受此項提議、至本事件解決之道、我國政府願經由外交途徑與日本政府立即商議、俾得適當解決。倘有地方性質、可就地解決者、亦必經我國中央政府之許可。總之、我國政府極願盡各種方法以維持東亞之和平。故凡國際公法或國際條約對於處理國際紛爭所公認之任何和平方法、如兩方直接交涉、斡旋調解、公斷等、我國政府無不樂於接受也。

中華民國二十六年七月十九日

3961

### 第三節 東京ニ於ケル日支會談

支那代理 七月十一日朝楊代理大使ノ來訪ヲ求メ次官ヨリ我方ノ公正ナル態度ニ依リ一時諒解成立セルニ拘ラス  
來訪 支那代理 支那側ノ無謀ナル行動ニ依リ再ヒ事態惡化セル前夜來ノ經過ヲ詳細説明シ今後支那側ノ出方如何ニ依  
大使代理 支那代理 リテハ益々惡化スヘシト支那側ノ注意ヲ喚起セルガ楊ハ支那ノ國力及國際情勢ニ鑑ミルモ南京側トシ  
來訪 支那代理 テ何處迄モ日本側ニ對抗スルト云フカ如キ無謀ナル考ハ全然ナキモノト思考スルモ我方申入レノ次第  
ハ早速本國政府ニ電報スヘキ旨述ヘタルカ十五日楊代理大使次官ヲ來訪本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以

8 1.1.1.0 - 27



許大使  
臣來訪大

テ川越大使ノ歸寧ヲ希望シ現地協定ニ對スル支那側ノ考ヘ方ヲ説明セルカ次官ヨリハ兩國關係ノ打開  
中南支等ニ於ケル抗日言動ノ取締、中央軍ノ軍事行動中止等ニ付注意ヲ喚起シ置ケルカ更ニ二十日許  
大使大臣ヲ來訪セルニ付大臣ヨリ日本側ニ於テハ事件不擴大、現地解決ヲ根本方針トシテ時局ノ處理  
ニ當リ來レルカ南京ニ於テハ頻リニ現地解決ニ對シ妨礙ヲ加ヘ居リ十七日モ日高參事官ヨリ王部長ニ  
對シ警告ヲ發シタルニ拘ラス何等誠意アル返答ヲ得サルハ遺憾ナリ現地協定ノ内容ハ支那側ニ於テ當  
然承知シ居ル筈ナルヘク右ヲ承認方至急南京政府ニ傳達アリタシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ大使ハ右ヲ了  
承シ支那軍隊ハ決シテ事ヲ構ヘス唯自衛手段ニ出テ居ルニ過キサル旨辯明セリ更ニ二十一日許大使大  
臣ヲ來訪、一定期日ヲ定メ兩軍行動ヲ停止シ軍隊ハ原駐地ニ撤收スルコト事件不擴大ノ根本方針ニ副  
フ所以ナリトテ大臣ノ意嚮ヲ求メタルヲ以テ大臣ヨリ今日ハ爭ノ源タル北支ノ現狀ヲ治ムルコトカ最  
モ肝要ニシテ右語合付カサルニ一般撤兵問題ヲ論議スルハ非常識ナリトノ趣旨ヲ述ヘ更ニ中央政府ニ  
依ル現地協定承認ニ付テモ應酬アリタリ

第四節 第二國ニ對スル措置

第一款 東京ニ於ケル措置  
一、英 國

十五日英  
代理大使  
ヨリ申出

十五日英代理大使ヨリ次官ニ對シ英國ニ於テハ北支ノ事態ヲ更ニ紛糾セシムルカ如キ行動ハ一切之ヲ  
差控フル様支那側ニ對シ「インフルエンス」ヲ用ヒ居ル旨並ニ事件ノ解決ニ付英國カ御役ニ立チ得ル  
コトアリヤトノ趣旨ヲ口頭ヲ以テ申述ヘタルカ(右ニ對シ次官ヨリ北支事變ハ現地交渉ニ依リ解決シ  
得ル見込ニ付差當リ英國側ノ盡力ヲ要セサルヘキ旨答ヘタリ)十六日同代理大使再應次官ヲ來訪シ南  
京ニ於ケル英大使ト王外交部長トノ會見ノ結果ニ依ルモ支那側ハ日本側ト同時ニ軍隊ノ移動ヲ中止シ  
之ヲ事件前ノ原駐地ニ撤收スルノ用意アルモノノ如ク現ニ王部長ハ是カ準備的措置トシテ七月十七日  
ヲ限リ雙方共軍隊ノ移動ヲ停止セハ引續キ原狀回復ノ協定モナシ得ヘシトノ意嚮ナルカ如シト述ヘタ  
ルモ次官ヨリ前會見ト同様ノ應酬ヲナシ置ケリ尙同代理大使ハ十八日再ヒ次官ニ對シ前記王部長ノ日  
支兩軍移動停止案ヲ持出シタルニ付次官ヨリ日本政府ハ本案ヲ考慮スルノ意嚮ナキ旨回答セル處同代  
理大使ハ在支英大使ハ右案ハ此ノ際蔣介石ノ執リ得ヘキ唯一ノ措置ニシテ之ニシテ認メラレザレハ蔣  
ハ其ノ地位ヲ保チ得ス事懸混亂ヲ招ク惧アリトノ觀測ヲナシ居リ又日本側ノ現地ニ於ケル要求事項ハ  
之ヲ南京ニ通告セラレテハ如何トノ意向ヲ有スルカ如シト述ヘ(次官ヨリ南京ハ既ニ委細承知シ居ル  
ヘシト答フ)二十一日來訪ノ際ニハ駐支英國大使ノ支那側態度ニ關スル觀察ナリトテ支那側ハ一定限  
度以上ニ日本側要求ヲ容認スルコトハ輿論ノ手前上許サレヌ若シ日本側ニシテ支那側態度ニ懸引アリ  
ト觀測スルナラハ大ナル誤ナリトノ趣旨ヲ內報セリ仍テ次官ヨリ支那側ニ於テ中央軍ヲ北上セシメ事

二十一日  
申出

十八日英  
代理大使  
ヨリ申出

三三

8 1.1.1.0 - 27 3963

許大使  
臣來訪大

三三

8 1.1.1.0 - 27 3962 0023

十二日吉田駐英大使英外相ト會見我方ハ事件不擴大ノ方針ヲ堅持ノ上措置シツツアルモ支那側カ徒ラニ戰闘ヲ續クルカ如キ態度ニ出ツルコトナキヤ懸念スル旨申入レ英國ヨリ此ノ際支那側ニ戒告セラレテハ如何ト述ヘタルニ外相ハ重ネテ帝國政府ノ不擴大方針ニ付念ヲ押シ居タリ尙同大使ハ十六日「カドガン」次官補ト會見英國政府ハ米國政府ニ對シ共同動作ニ付何等カノ申出ヲナシタリト報道アル處事實ナリヤト質シタルニ「カ」ハ日支兩國政府ニ事態擴大防止方ヲ希望シ右ニ就キ役立ツコトアラハ英國ハ欣然之ヲナスヘキ旨傳達方在日支英國使臣ニ訓令シ又駐支英大使ニ對シテハ事態ノ收拾ヲ困難ナラシメサル様支那側ニ充分注意方訓令セルカ米國ニハ右事實ヲ通報セルノミト答ヘタリ尙二十一日ノ會見ニ於テ英外相ヨリ蔣介石ハ日本ヲ相手ニ戰フカナキハ明白ナルモ支那ノ國內事情ハ直ニ屈伏ヲ困難トスルモノアルヘク意外ノ衝突ナキヤ甚タ懸念ニ堪エス何トカ事態收拾ノ途ナキヤ先日駐日英代理大使ヨリ貴國政府ニ申入レタル通り英國ハ時局ノ收拾ノ爲スヘキコトアラハ努力ヲ惜マストノ趣旨ヲ申出テ同大使ヨリ右ヲ政府ニ傳達シ置クヘキ旨答ヘタリ

3965  
S 1.1.1.0 - 27

三三  
態ヲ惡化スルカ如キコトナキ限リ日本側ニ於テモ増援部隊ノ撤收ヲ考慮シ得ル次第トナルヘシト思考スル旨並ニ日本政府ノ南京側ニ求ムル所ハ現地解決ヲ妨礙セスト云フニ在リテ解決條件ノ承認ヲ要求シ居ル次第ニ非ス恐ラク支那側トシテモ此ノ際現地解決ノ結果ヲ獲サントスル態度ニハ出テサルヘキ旨述ヘ置キタルカ事態急迫スルヤ二十八日同代理大使ハ再ヒ次官ニ對シ北平方面ニ於ケル英國側ノ權益尊重方並ニ日本側ノ措置ハ事態ヲ擴大惡化スルノ惧アリト思考セララル旨申入レタリ

二、米 國

在本邦米大使ハ二十二日大臣ヲ來訪二十一日華府ニ於テ國務長官ヨリ齋藤大使ニ對シテナセル申出(本節第二款參照)ヲ日本政府ニ通報スヘキ旨訓令ニ接セリトテ右ト同趣旨ヲ述ヘタリ右ニ對シ大臣ヨリ國務長官ノ意ノ在ル處ハ之ヲ多トスルモ北支ノ現勢ヲ見ルニ既二十九日日支間ニ現地解決ニ關スル細目ノ話合成立シ支那側モ右ヲ實行シツツアル模様ナレハ南京側ノ妨礙モナク是カ完全ナル履行ヲ見極メタル上ハ追テ彼我軍隊ノ撤收ニ關スル折衝モ開始シ得ヘキ譯合ナル旨説明ヲ加ヘタルカ二十八日再應大臣ヲ來訪北平ノ事態惡化セルカ同方面ニ於ケル米國人ノ生命財產ノ安全ヲ尊重アリ度キ旨申出テタリ

第二款 倫敦、華府、巴里、伯林ニ於ケル措置

一、英 國

3964 0021  
S 1.1.1.0 - 27

三六  
 藤大使ヨリ昨今ノ新聞ニ英國カ米國ト連絡シ日支ニ申入レヲナス考ヘアルヤノ報道アル處英國側ヨリ何等スル報道アリタルヤト質シタルニ未タ何等具體的通報ナキモ若シアリタル場合ハ直ニ傳フヘシ只米國トシテハ如何ナル場合ニモ差出カマシイ態度ハトラサルニ付御諒解アリタシト答ヘタリ尙二十一  
 日ノ會見ニ於テハ長官ヨリ日支兩國開戦スルニ於テハ歐洲ニモ種々困難ナル問題ノ存スル此ノ際殊ニ憂慮ニ堪ヘス若シ米國トシテ日支兩國ノ爲何等カ役立ツコトアラハ「調停」ノ形式ヲトラサル程度ニ於テ平和維持ノ爲何分ノ盡力ヲ致シ度ク右趣旨ハ駐日米大使ニモ訓令シ外務省ニ申出ラシムヘシト述  
 々（前述第一款第二項、東京ニ於ケル措置参照）同大使ヨリ今回ノ事件ハ日支間ニテ解決シ得ヘキ旨答ヘ置キタリ

三、佛 國

十二日內山代理大使「コスム」亞細亞局長ト會見シ事件ノ經過並ニ我方ノ現地解決、不擴大主義ヲ說明シ局長ハ事件ノ迅速ナル解決ヲ希望セルカ十四日同局長ハ出來得ル限リノ斡旋ハ何時ニテモ行フヘシト述ヘタリ更ニ十五日同代理大使「デルボス」外相ト會見セルニ外相ハ世界ノ平和維持ノ爲日支兩國カ「賢明且穩健ナル態度」ヲ執ラシコトヲ希望ス又本件ノ急速圓滿ナル解決ノ爲佛國政府ノ爲シ得ル事ハ何事ニテモ致度シ本日ノ申入ハ九ヶ國條約ヲ基礎トスルモノニ非スト述ヘタルヲ以テ同大使ヨリ日本側ハ事件ノ擴大ヲ旨トシ十一日ノ交渉ヲ基礎ニ急速ナル解決ヲ期待シ居ルモ支那側軍隊ノ抗

日的活動盛ナルヲ以テ自衛上之ニ對抗スルコトアルヘキ旨ヲ述ヘタリ二十三日內山代理大使ハ更ニ外相ヲ往訪シ極東ノ平和維持ハ帝國ノ顧念スル處ナルヲ以テ事件發生以來賢明且穩健ナル態度カ帝國政府ノ行動基準タリキ又第三國ノ介入ハ事件ヲ複雑ニシ却テ急速ナル解決ヲ妨クル處アリ事件ハ既ニ現地交渉ノ解決ニ同ヒツツアリトノ趣旨ヲ説明ノ上英米佛間ニ共同申出ノ風聞傳ハリ居ル處、右ノ事實アリヤト尋ネタルニ外相ハ共同行爲ハ佛國政府トシテ全然考ヘ居ラサル旨答ヘタリ

四、獨 逸

武者小路駐獨大使ハ十四日獨外相ト會見シ我方方針ヲ申入レタルニ外相ハ極メテ友好的態度ヲ示セル上事態ノ急速收拾ヲ希望セリ

8 1.1.1.0 - 27 3967

8 1.1.1.0 - 27 3966 ( 0022

第三章 上海ニ於ケル日支兩軍ノ衝突

第一節 戰鬪勃發迄ノ經緯

第一款 大山事件直前ノ上海狀勢

一、北支ニ於ケル日支軍事行動ノ進捗ニ伴ヒ中、南支方面狀勢漸ク險惡ノ兆アリ上海ニ於テモ支那軍漸次増強セラレ八月初旬同地方支那兵力ハ保安隊三千五百、憲兵千五百、警察隊(裝備ハ軍隊ト同シキモノ)五千アリ又京滬沿線ニ王敬久八十七師(停戰區域ニ接近)宋希濂三十六師、孫元良八十八師滬杭沿線ニ李松山五十五劉尚志五十六、阮肇昌五十七ノ三個師及一獨立旅、一獨立砲兵團(以上何レモ中央軍)駐屯セルカ上海ヲ中心トスル正規軍ハ全部ニテ十個師ニ増強スル豫定ニテ漸次集結中ノ由傳ヘラレタリ

二、先之上海ニ於ケル抗日團體タル各界抗敵後援會及文化會救亡協會等ノ諸團體ハ前線兵士慰問隊ノ組織、抗日義捐金ノ募集等ヲ決議シ蔣介石ニ對シ激刺電ヲ發シ又私貨不賣買委員會、中華國貨維持會等ハ私貨ノ不賣買、廢銅、鐵屑ノ輸出防止ヲ決議シ尙又學生等ハ從軍ヲ志願スル等抗日氣勢ヲ舉ケタルカ八月ニ入り開北方面ニ於テハ内密ニ保安隊ノ集結ヲ行ヒ防備施設ヲ施シ連夜演習ヲ舉行シ居ルヤニテ之カ爲上海ニ於テモ日支衝突ノ危機刻々切迫セリトシ各種ノ流言蜚語亂レ飛ヒ開北及東

支那兵力  
上海ニ集

抗日團體  
組織

支那兵力  
上海ニ集

抗日團體  
組織

支那兵力  
上海ニ集

部地域ヨリ租界内ヘノ支那人避難者晝夜絡繹トシテ虹口一帶ハ上海事變以來ノ混雜ニシテ八月初旬ノ租界逃入者五萬ヲ突破スル狀態ニシテ右ハ在留邦人殊ニ租界外居住者ニ對シ少カラサル不安ヲ與ヘタル折柄五日夜半ヨリ七日早朝ニ亘リ保安隊ハ北部體育路方面ニ於テ殊更日本部落(日本人俱樂部附屬園附近)ヲ目標ニ襲撃演習ヲ舉行セル趣ニテ同地域邦人ハ通州事件ヲ聯想シテ恐怖ニ戰キ婦女子ヲ床下又ハ醜造用大樽ノ中ニ匿シ萬一ニ備フル等非常ノ衝撃ヲ與ヘタル事件發生シ避難方ニ付上海總領事館ノ指揮ヲ懇請シ來レリ

三、依テ岡本總領事ハ六日午後上海市長俞鴻鈞ニ對シ前記保安隊演習ノ事實ニ基キ支那側ノ反省竝ニ取締方嚴重要求シタルニ市長ニ於テモ出來得ル限リ保安隊ヲシテ日本人ニ無用ノ不安ヲ抱カシメサル様適當措置方約セルモ支那側ニ於テハ日本側カ上海方面ニ派兵スル意圖アルコトヲ極度ニ恐レ内々防備ヲ施シツツアリタルハ事實ト認メラレタル趣ニシテ(開北、江灣及同地ヨリ開北ニ通スル道路西側其他ニ防備施設ヲ爲シ兵ヲ配ス)依テ岡本總領事ハ此ノ上同方面居留民ヲ孤立無援ノ危機ニ曝スニ忍ヒス且ハ事端ヲ避クル爲不取敢六日租界内ニ避難セシムルコトトセリ

四、其後上海支那側各區市民聯合會ハ八日國民政府及軍事委員會ニ對シ全面抗戰ノ發動方電報シ又青年救亡協會ノ成立、歌詠救亡會ノ宣傳隊組織等各種抗日團體ハ益々活潑トナリ支那人ノ引越ノ範圍漸次擴マリ開北方面ハ既ニ殆ト全部引越シ虹口及北四川路一帶ヨリノ引越モ日ニ増加シ又

大山事件

邦人婦女子ノ内地ニ引揚タルモノ便船毎ニ増加セリ  
第二款 大山事件並上海ニ於ケル日支間折衝

一、八月九日午後五時三十分頃上海特別陸戰隊大山中尉(制服着用シ居レリ)及齋藤水兵カ陸戰隊自動車ニ塔乗シ虹橋飛行場附近越界路タル「モニユメント」路ニ差懸リタル際保安隊ヨリ包圍射撃セラレ即死セル事件發生セリ上海市長俞鴻鈞ハ同夜岡本總領事ヲ來訪甚タ不幸ナル事件發生セルカ雙方調査ノ上不擴大方針ニ依リ解決シ度シト述ヘタルニ付岡本總領事ヨリ我方ノ提出スヘキ要求ヲ留保セル上差當リノ問題トシテ保安隊ヲ至急前線ヨリ撤退セシメ我方陸戰隊トノ間ニ衝突ヲ惹起セサル様措置方申述ヘ翌十日午前零時半我方及支那側立會ノ上工部局ノ實地檢證行ハレ支那側行爲ノ不法ナリシコト立證セラレタリ

二、斯テ現地ノ形勢ハ愈々急迫セルヲ以テ十一日岡本總領事ハ更ニ俞市長ト會見上海ノ治安維持及今後類似事件ノ再發ヲ防止スル爲メ差當リノ緊急措置トシテ日本人ノ居住區域ニ接近セル場所ノ保安隊ヲ後退セシムルコト及其ノ防禦施設ヲ一切撤去セシメラレ度キ旨嚴重申入レタル處俞ハ九日岡本總領事ト會見ノ後日本人ノ居住區域ニ接近セル場所(八字橋日本人墓地及麥酒會社附近等)ノ保安隊ニ後退ヲ命スルト共ニ土囊、鐵條網等防禦施設ノ撤收方指令シ何レモ既ニ實施セラレタルカ右ハ支那側ノ自發的措置ニ基クモノナリト答ヘリ依テ岡本總領事ハ保安隊ノ後退ニ付軍事専門家ノ安

岡本總領事會見

當ト認ムル一定距離迄後退方強調セルニ愈ハ一定距離ヲ定ムルコトニハ同意セサリシモ現位置ヨリ更ハ或程度後退セシムルコトニ同意セリ尙岡本總領事ハ保安隊ノ裝備及行動ハ治安維持ノ爲ニハ必要以上ノモノアリテ明カニ停戰協定ノ趣旨ニ違反スル旨申入レタリ

三、然ルニ右岡本總領事ノ申入ニ對スル俞市長ノ言明ニ拘ハラズ保安隊ハ益々進出シ西部ハ勿論北停車場附近迄土囊ヲ構築シ又吳淞方面ニハ正規兵ヲ入レ居ル實情ナリシヲ以テ南京ニ於テモ十一日及十二日高參事官ヨリ支那側ニ對シ保安隊ノ後退及防禦施設ノ撤廢方申入ルルト共ニ(本章第二款參照)十二日朝來岡本總領事ニ於テ更ニ市長ニ嚴重交渉セルモ市長ハ市政府ニ出勤セス官邸ニ留マリ居リ周章狼狽殆ト爲ス所ヲ知ラサルカ如キ狀況ナリキ

停戰協定共同委員會之開會

四、一方岡本總領事ハ停戰協定共同委員會緊急會議開催方要求シ八月十二日開催(日、英、米、佛、伊、支各國委員出席)セルカ同會議ニ於テハ英米等ニ於テ我方ヲ支援シ不取敢ノ措置トシテ保安隊及正規軍ヲ衝突ノ危險ナキ程度迄撤退方要求シタルモ支那委員(俞上海市長)ハ全然支那軍ニ對スル統制ナキコトヲ白狀シタル實情ニテ目的ヲ達セス委員會ハ僅カニ「日支兩軍ハ互ニ相手方ヨリ攻撃ヲ受クルニ非サレハ戰端ヲ開カサル旨日支委員ヨリ双方ノ司令官ニ申入ルル」旨ヲ決議シ日支委員之ヲ應諾セルニ過キス

陸戰隊増援

五、先之海軍ニ於テハ陸戰隊約千名ヲ上海ニ増派スルコトナリ十一日同地ニ到着セルカ右ハ從來第

0024

8 1.1.1.0 - 27 3970

8 1.1.1.0 - 27 3971

支那側  
支那軍隊

日新報  
朝日新聞  
支那軍隊  
支那軍隊

工部局  
工部局

租界  
租界

停車場附近) 及舊月廻家花園附近迄進出シ居ル支那正規軍ヨリ受ケル脅威(陸戰隊本部方面ト租界内トノ聯絡遮斷ノ惧アリ)ニ鑑ミ飽迄北四川路及「デキスウエル」路間ノ地區ヲ確保セントスル趣旨ニ出テタル由ニテ一方岡本總領事ハ午後三時南北部鐵路以西ノ居住邦人ニ任意租界内引揚方勸告シ七時半鐵道及北四川路間ノ地區並ニ「デキスウエル」路其美路附近等所謂北部地方一帯ノ邦人ニ對シ租界内安全地帯へ避難方命令シ之ヲ了セリ

尙工部局ハ十二日午後二時ヨリ虹口及「デキスウエル」ニ非常警戒ヲ命シ同日夜ヨリ各國義勇隊全員ヲ動員シテ(約千五百)「ニュー、セクション」(蘇州河以北、北四川路以西地區)ノ警備ニ就カシメ又西部ニ於テハ滬杭甬鐵路及越界路ノ交叉點タル要所四箇所ニ蘇聯邦義勇隊及工部局警官ヲ派駐シテ武装支那人ノ侵入ヲ阻止シ非常ノ場合ニハ英國陸戰隊ニ通報スヘキ旨命セル趣ナリ

八、尙右事態急迫ノ折柄東京朝日新聞記者岡美千雄ハ十二日午後一時過上海北停車場附近ニ於テ寫眞撮影中保安隊(八十八師トモ稱ス)ノ爲拉致セラレ同行記者二名ハ辛クシテ逃ケ來レルカ(岡ハ十三日朝警察局ヲ通シ引渡ヲ受ク)又憲兵軍曹大前旭及通譯熊野敏夫兩名ハ正午過北停車場方面ニ出向キタル儘行衛不明トナレリ

第三款 事態ノ擴大(八月十三日ヨリ二十三日陸兵上海到着迄)

一、然ルニ十三日午前九時半頃支那便衣隊數名ハ寶山路商務印書館跡附近ヨリ我カ警備兵ニ對シ機銃

四三

8 1.1.1.0 - 27 3973

陸戰隊  
陸戰隊

保安隊  
保安隊

三艦隊ヨリ度々要求アリタルヲ抑ヘ待機セシメ居タルモノヲ今回ノ事件モアリ己ムヲ得ス増派ノコトニ決シタルモノニシテ海軍側ニ於テモ之ニ依リテ支那側ヲ刺戟スルカ如キコトナキ様充分注意ノ上措置セル次第ナルカ右陸戰隊員及軍艦ノ増派ハ支那側ニ對シ異常ナル刺戟ヲ與ヘタルモノノ如シト約百五十米ノ近距離地點タル本部裏鐵道線路迄又嘉興路(吳淞路突當リ)ニ押シ進ミタルノミナラス北停車場附近一帯ニ急遽嚴重防備ヲ施設シタルカ其他當時上海ニ於ケル保安隊ノ狀況ハ其美路方面ハ左迄防禦シ居ラサリシモ市政府中心區ヨリ江灣路、中山路ニ掛ケテハ隨所ニ百名内外ノ兵力ヲ配シ嚴重ナル防禦陣地ヲ構成シ居リ特ニ寶山路、閘北一帯ハ最も嚴重ニシテ機關銃、歩兵砲其ノ他總ユル兵器ヲ裝備シ居タル趣ニシテ上海ハ一般ニ保安隊ニ依リ重圍セララルニ至レルカ一方滬寧、滬杭沿線ノ正規部隊モ動キ出シ蘇州ノ八十八師入滬セルヤノ情報モアリ支那側ノ態度俄カニ挑戰的トナリ一觸即發ノ危機ヲ孕ムニ至レリ

七、然ルニ一方我陸戰隊側ニ於テハ萬一衝突起ルニ於テハ當時ニ於ケル兵力ヲ以テシテハ對抗相當困難ナルヘク又増援カ迅速且有效ニ運ビ得ヘキヤモ疑ハシク形勢樂觀ヲ許ササリシモノアリタルモ狀況猶豫スヘカラサルニ至リタルヲ以テ十二日夜陸戰隊ハ遂ニ北四川路等越界路區ニ兵ヲ配備スル外六三花園、八字橋ニ派兵セリ(但絕對ニ我方ヨリ發砲セサル方針ナリ)右措置ハ「ハスケル」路(北

四二

0025

8 1.1.1.0 - 27 3972

我方艦隊

支那飛行機

支那機銃

ヲ發砲シ我方ヲ掃射セハニ次テ同日午後一時ヨリ二時半迄寶山路ヨリ北四川路我カ警備兵ニ機銃ヲ發射シ來レルモ我方應戰セザリシ等彼我前線ニ小銃合戦出シタル處同日午後四時半頃ニ至リ八字橋方面ノ支那軍(山砲迫撃砲裝備ス)ハ前進シ來リタル爲我陸戰隊ハ支那軍ノ邦人居住地域侵入ヲ防止スル爲午後四時五十分迄ニ應戰ヲ開始セリ

尙午後五時支那正規兵ハ共同租界東北部東華紡及公大第一廠ノ我警備兵ヲ攻撃シ來レルヲ以テ直ニ之ヲ反撃シ公大ノ分ニ對シテハ我軍艦栗及勢多ノ砲撃ヲ以テ酬ヒタリ

二、十四日午前二時支那軍ハ閩北、江灣方面ヨリ我方ニ對シ砲撃ヲ開始シ續テ上海附近各方面ニ日支交戦開始セラレタルカ午前十時支那機銃數臺ハ我軍艦(旗艦出雲ハ我總領事館直前ニ碇泊シ同館モ危險ニ曝サル)及陸戰隊本部等ヲ目標トシ頻々ト爆彈ヲ投下シ邦人紡績工場及英國商社損害ヲ受ケタリ

然ルニ同夕刻ニ至リ支那側ノ空爆ハ愈々猛烈ヲ極メ陸戰隊本部、紡績工場及我避難民ノ集結シ居リシ日本小學校ニ爆彈ヲ投下シ又浦東「スタンダード、オイル」、米國極東艦隊旗艦「オーガスタ」號附近、新世界、「カセイホテル」、「パレスホテル」等ニ落下セルモノアリ多數ノ外人ノ死傷者ヲ出ス等支那機ノ爆撃ハ狂亂ノ極ニ達セルカ我方ハ敵機ニ機ヲ擊墜セリ

三、十四日夕ヨリ支那側ハ上海全線ニ互リ總攻撃ヲ開始シ我陣地ノ前方百米ノ近ク迄肉迫セルモ我方

海軍機活

日支兩軍

工部局東  
退界同租  
撤

良ク應戰シ之ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ盡ク擊退セリ十五日朝ニ至リ支那側前線ハ若干後退セル模様ニシテ我方ハ自重シテ追撃セズ曩ニ樂觀ヲ許サザリシ陸戰隊防備モ陸軍ノ到着迄持堪ヘ得ルノ見込立ツニ至レリ

四、十四日夕我海軍機ハ廣德及杭州方面ヲ空襲シ敵ノ飛行機三十數臺ヲ爆破セルカ十五日更ニ南昌及南京ノ飛行場ヲ空襲シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ我海軍機ハ十六日モ引續キ上海近傍ノ敵空軍基地ヲ爆撃シタル結果支那側ハ空軍根據地ヲ漢口方面ニ移動セントスル模様アリタリ

五、其後閩北、江灣方面ニ於テハ敵ノ攻撃依然執拗ニシテ陸戰隊ト對峙中ノ敵軍ハ八十七、八十八、三十六各師(以上中央)ナリシカ新二十五師(湖南軍)及百十八師(舊東北軍)ノ増派アリタル模様ニシテ十七日我増援部隊(海兵)二千上海「ベルグイ」ニ到着セリ

六、上海工部局ハ支那砲彈カ共同租界楊樹浦方面ニ落下シ危險ナリトノ理由ニテ十七日正午ヨリ同方面警備ノ警察隊(日本隊ヲ含ム)ヲ虹口「クリック」以東ニ撤退スルニ至リ(二十三日午後四時舊態ニ復ス)我第三艦隊ハ悲壯ナル決意ヲ以テ同方面ヲ守備スルコトナリ同方面居留民ハ日本汽船内ニ收容セルカ右ノ結果支那側ハ大部隊ヲ以テ同方面ヲ壓迫スルニ至レル處我方、工部局話合ノ結果毎日未明ヨリ午後七時迄ハ工部局警察カヲ以テ虹口「クリック」以東ノ共同租界全地域巡察ヲ行ヒ夜間ハ同警察ノ日本隊ノミニテ警備スルコトナリタルカ十七日夜ヨリ十八日曉ニ掛ケ同方面租

四五

S 1.1.1.0 - 27

3975

0026

S 1.1.1.0 - 27

3974

我方善戰

界内ニ約一ケ旅ノ敵部隊侵入シ東華紡附近ニ陣地ヲ占領セルヲ以テ我方ハ一時兵ヲ公大第一廠ニ集結シ艦艇ノ砲撃ト相俟テ苦戦十數時間ノ後十八日朝之ヲ撃退セリ尙當時午後四時頃ヨリ我空軍ハ北停車場、八字橋、江灣路、其美路等敵陣地ヲ爆撃シ又我艦隊ハ六時半頃ヨリ楊樹浦方面ノ敵ニ砲火ヲ開ケリ

四六

陸軍ノ派

前記工部局警察隊ノ虹口「タリク」以東地區ノ撤退ハ連日ノ交戦ニ疲勞セシ陸戰隊ノ困難ヲ加ヘタルモノノ如ク前線ノ通り同地區ノ居留民ノ引揚ヲ行ヒタル外虹口ノ居留民スラ助搖極度ニ達シ聞本總領事ハ至急陸兵ノ派遣方電請(十七日夜)セル次第ナルカ右十七日夜ノ事態ハ上海ニ於ケル事變動發以來最モ共同租界ノ危機ナリト見ラレタルカ如シ

七、其後上海ニ於テハ支那側ハ依然執拗ニ夜間攻撃ヲ繰返ヘシタルカ我方ノ果敢ナル防戦ニ依リ撃退セラレ居リタル處先之上海ノ事態急迫スルヤ八月十四日内地三師團ニ動員令下リ八月二十三日早朝ニ至リ我兵ハ吳淞及劉河方面ヨリ上陸セリ

### 第二節 上海方面事態ニ關聯スル帝國政府ノ方針並措置

#### 第一款 中央ノ方針並措置

大山事件解決方針

一、八月九日大山事件發生セルヤ今次事變ニ對スル政府ノ根本方針ニ鑑ミ本事件ノ擴大ハ面白カラサ

ニ關スル

ルノミナラス本事件ノ爲又ハ同様ノ事件カ再發シ大局カ歪メラルコトヲ極度ニ避ケタシトノ方針ニテ極メテ慎重ナル態度ヲ持シ八月十日外務大臣ヨリ川越大使並岡本總領事ニ對シ「本件ハ速ニ之ヲ合理的ニ解決シ解決條件等ニ就テモ支那側ノ實行至難ナル如キモノハ之ヲ避ケルコトトスル一方上海ニ於ケル緊張セル彼我ノ空氣ノ緩和方(保安隊ノ撤退、支那側防備施設ノ取止メ等)訓令セ

事態惡化防止方ニ關スル電

二、然ルニ大山事件後上海方面ニ於ケル支那側ノ停戰協定侵犯ハ愈々顯著ニシテ事態ヲ益々惡化セシメタル次第ナル處本省ニ於テハ八月十二日更ニ在支川越大使及岡本總領事ニ對シ大要「上海停戰區域内ニ實質上正規軍ト何等異ルコトナキ必要ニ多數且強力ナル保安隊ノ存在スルハ停戰協定ノ實質的侵害ナルノミナラス今ヤ正規軍北停車場方面ニ續々進入シツツアル模様ニシテ之ヲ此ノ儘放任セハ日支間ノ衝突ハ必定ト認ララル處停戰協定共同委員會ヲ構成スル英米佛伊ノ各委員ハ停戰協定ヲ確實ニ遵守シ居ラルルヤ否ヤヲ監視スルノ任務ヲ有スルニ付其ノ速ナル發動ヲ促進スル様列國及支那側ニ措置方」訓令セリ(上海、南京ニ於ケル措置振ニ付テハ本章第一節第二款及後出第二節第二款參照)

陸兵派遣決定ト川越大使赴寧問題

三、上海ノ事態愈々切迫セルニ鑑ミ十二日夜首相及陸海外三大臣會合海軍大臣ヨリ陸兵派遣方第三艦隊長官ヨリ請求アリタリトテ右出兵方了解ヲ求メ十三日ノ閣議ニ於テ決定ノ運トナリタルカ(十三

四七



國民政府  
軍事會議

一、支那側軍事會議ニ對スル警告(八月七日)

北支ニ於ケル日支軍事行動進展ニ伴ヒ揚子江流域及南京各地ニ於ケル情勢刻々惡化シ一觸即發ノ形勢ヲ馴致セル折柄國民政府ハ八月初旬軍事會議ヲ開キ對日方針ヲ決定スルヤノ情報アリタルヲ以テ在南京日高參事官ハ本省ノ訓令(右軍事會議ニ於テ更ニ我方ヲ挑撥スルカ如キ積極的態度ヲ決スルカ如キコトアラハ極力全面的衝突ヲ避ケントスル我方ノ平和的意圖モ遂ニ之ヲ拋棄スルノ已ムナキ破目ニ陥ルヤモ計ラレサル次第ナルヲ以テ國民政府ニ對シ帝國政府トシテハ依然事態不擴大ノ方針ヲ持スルモノナルモ前記軍事會議ニ於テ必要ニ日本ヲ刺戟スルカ如キ態度ニ出スルニ於テハ萬事打壞シトナルヘキニ付右様ノコトナキ様慎重注意スル様警告セシム)ヲ體シ八月七日高宗武ト會見ノ際蔣カ目下各地ノ要人ヲ招集シ居ルコトニ言及シ右ハ蔣カ彼等ニ事態ヲ了解セシメ其ノ意見ヲ個々ニ徵スルト共ニ萬一ノ場合ノ責任分擔ヲ圖リ居ルモノト思ハルルモ(高ハ斯ク解釋スルコト眞ニ近カラント述ヘタル由)外部ニ與フル印象ハ餘程烈シキモノアルヲ以テ若シ蔣カ之ヲ利用シテ對日強硬決意ヲ天下ニ聲明スル様ノ措置ニ出テンカ日支ノ關係ハ萬事打壞シトナルヘキヲ懼ルヘキ旨警告セリ尙其ノ際日高參事官ハ姑息ナル一時凌キノ妥結ハ日支國交ノ將來ニ害アリ局面打開ノ途ハ蔣カ此ノ際一大決心ヲ以テ百年ノ國交調整ニ乗出ス外ナカルヘキ旨ヲ強調セルカ當時ニ於ケル支那側當局ノ態度ニ付日高參事官ニ語ルトコロニ依レハ外交部ニ於テハ此ノ重大時局ニ當リ責任ヲ負ヒテ

四九

8 1.1.1.0 - 27

3979

川越大使  
意見具申

四八

高宗武  
通牒

日ノ閣議ニ於テ上海ニ陸兵ヲ派遣スル爲ノ動員下令方決定セルカ動員ノ時期及兵數ハ參謀本部、軍令部間ノ協議ニ依リ決定スルコトナレリ)一方外務大臣ヨリ川越大使ニ對シ大至急赴寧ノ上上海ニ於ケル危機解消ニ付南京當局ト直接交渉シ同時ニ停戰等ノ問題ノ進捗ニ努力方訓令セリ  
右ニ對シ川越大使ハ大要「上海ニ陸兵ノ派遣ヲ見ルニ於テハ却テ兵力衝突ヲ不可避ナラシメ居留民現地保護ノ爲ニモ決シテ得策ナラス而シ對支全面的作戰トシテモ飽迄北支(山東ヲ除ク)ヨリ直押ニ押スコト最有效ナルヲ以テ此ノ際上海ニ陸兵ノ派遣ハ是非差控フル様」具申スルト共ニ「同使赴寧ノ上北方停戰ニ關スル語合ヲ進メントノ件ニ就テハ上海ノ問題ノ如ク我方ノ威力の方面ニアラスシテ寧ろ弱キ方面ヲ同時ニ持出シ語合ヲ進メントセハ假ニ成立ノ場合ニ於テモ其ノ内容ハ我ニ不利ナルヘシ」トノ意見ヲ述ヘ來レルカ右ニ對シ外務大臣ヨリ大局上上海ノ危機ヲ救フ爲悉ユル努力ヲ盡ス必要アル趣ヲ以テ大使ノ赴寧交渉方十三日更ニ訓令スルトコロアリタリ  
一方同十三日外交部ニ於テモ高宗武ヲ上海ニ派シ川越大使ニ面會シ事態急變防止ニ努力セシムルコトトナレルヲ以テ外務大臣ハ海軍側ニ於テモ多大ノ期待ヲ懸ケ居ル次第モアリ川越大使ニ對シ高トノ間ニ屢次訓令ノ趣旨ヲ體シ出來得ル限リ成果ヲ舉グル様此ノ上共盡力方再應訓令セル次第ナルカ上海ニ於ケル日支衝突ノ結果十三日以來滬寧間ノ交通困難トナリ遂ニ高ノ出滬ヲ見スシテ終レリ

第二款 南京ニ於ケル折衝

8 1.1.1.0 - 27 3978

( 0028

十一月十一日  
高參事  
會見

收拾ニ努メントスルモ皆無ニシテ蔣介石、汪兆銘ヲ始メ其ノ他ノ要人モ思ツタコトハ言ハス高ハ  
蔣、汪兩者ノ意中ヲ付度シテ行動シ居ルモノナル旨述ヘ居タル趣ナリ  
二、(一) 十一月十日高參事官ハ外交部ニ陳次長ヲ往訪シ同事件ノ重大性ト保安隊從來ノ挑戰的態度ト  
ヲ力説シ特ニ我方ハ大英斷ヲ以テ揚子江ヨリ軍艦ノ引揚ヲ了シタル此ノ際上海ノ而モ越界路ニ於  
テ保安隊カ查問スカル理不盡ナル暴行ヲ敢テスルカ如キハ事件其ノモノノ重大性ヲ勿論其ノ時期  
ニ於テモ我國民ニ非常ナル衝動ヲ與ヘタル點ニ於テ實ニ憂慮スヘキ事件ナル旨述ヘ中央ニ於テ宜  
シク地方當局ヲ善導シ公正ナル解決ヲ見ル様盡力スルノ肝要ナルヲ力説セル處陳ハ斯ル時期ニ本  
事件ノ發生セルヲ遺憾トシ既ニ上海市長ニ對シ岡本總領事トノ間ニ速ニ解決方申送レル旨述ヘタ  
リ

十二月十二日  
高參事  
會見

(二) 日高參事官ハ岡本總領事ノ移牒ニ基キ更ニ十二月十二日午後三時半外交部ニ陳次長ヲ往訪シ緊急措置  
トシテ上海ニ於ケル保安隊ノ後退及防禦施設ノ撤退ノ至急實行方申入レタル處陳ハ不辭事ノ發生  
ヲ避クル爲メ措置ニ付テハ十一月十一日午後愈市長ハ岡本總領事ニ對シ日本人居住區域ニ接近セル場所  
ノ保安隊ヲ退ケ防禦施設ヲ撤收セル旨答ヘタル趣ナリト述ヘ此ノ際不必要ニ人心ノ刺戟ヲ避クル  
コト最モ必要ナル處十一月一日沖野輔佐官ヨリ楊虎ノ代表者ニ對シ陸戰隊二千名ノ増派ヲ決シタル旨  
申入アリ又他方第三艦隊ノ一部ハ既ニ吳淞ニ到着セル旨ノ新聞報道モアリ第十一戰隊漢口陸戰隊

十二月十三日  
高參事  
會見

等ト合セ上海及其ノ附近ニ於ケル日本ノ兵力ハ漸次強化セラレタル爲上海ノ民心ハ極度ニ怯ヘ居  
ル一方地方當局ヨリノ報告ニ依レハ十一月朝杭州飛行場ノ上空ニ日本飛行機三臺飛來シ又十日ノ  
晚ニハ乍浦ニ日本軍艦三隻、十一月朝舟山列島附近ニ十四隻ヲ認メタル趣ニテ南京ニ於テ非常ナ  
ル不安ヲ感シツツアル次第ナリトテ日本側ノ考慮ヲ求ムルトコロアリタリ  
(三) 十三日午後四時日高參事官ハ本省ノ訓令ニ基キ王外交部長ヲ往訪參事官ヨリ北支事變發生以來  
我方ハ不擴大方針ヲ執リ最近揚子江沿岸ヨリ居留民竝ニ警備艦ノ引揚ヲ斷行シタルモ全ク右方針  
ニ出テタルモノナル處恰モ其ノ時大山事件ノ發生ヲ見ルニ至リタルハ洵ニ遺憾ナリトテ其ノ重大  
性ヲ指摘シ上海ニ於ケル支那側兵力ノ撤退並軍事施設ノ撤去方要求セルカ右ニ對シ王ハ保安隊  
ノ進出ハ日本側カ多量ノ兵員、武器、飛行機、軍艦等ヲ送致セルコトニ依リ刺戟セラレタル結果  
ニシテ此ノ際支那側一方ニミ撤退ヲ求ムルハ無理ニシテ双方共事件勃發前ノ状態ニ歸スコト可  
然ト述ヘ參事官ヨリ支那側ノ停戰協定違反ヲ指摘セルニ對シ王ハ(イ) 本件協定ハ既ニ實施済ノモ  
ノナルコト(ロ) 防禦工事ノ如キハ戰鬪行為ノ性質ヲ有セザルコト(ハ) 從來日本ニ於テモ屢々停戰  
協定區域内ニ兵ヲ動カシ協定違反ヲ行ヒ居ルコト等ヲ擧ケテ支那側ノ見解ヲ述ヘタルニ付日高參  
事官ヨリ日本側トシテ先ツ差當リ事態ノ惡化ヲ抑止スル爲支那軍隊及保安隊ノ撤收並ニ軍事施設  
ノ撤去ヲ以テ絶對必要ノ先決要件ナルト認メ居ルモノナル旨復説得シタルモ王ハ之ニ承服セス互

S 1.1.1.0 - 27

3981

0029

S 1.1.1.0 - 27 3980

過  
未  
許  
印  
ト

譲ヲ主張スルノミニテ物別レトナレリ

第三款 東京ニ於ケル日支會談

八月十四日許大使廣田大臣ヲ來訪シ上海事態ノ不擴大ニ付申入レタルカ大臣ヨリ今回ノ事件ニ付テハ  
北支、上海ヲ通シ政府ハ飽迄局地解決、事態不擴大ノ根本方針ヲ以テ臨ミ居リタルニ拘ハラヌ支那側  
ハ現地協定ヲ無視シテ行動セリ上海ニ於テハ支那正規兵カ停戰協定ヲ無視シテ侵入シ來リ我方ニ發砲  
セル始末ニテ支那側ノ態度ハ全ク帝國政府ノ不擴大方針トハ全然反對ノモノナリ支那側トシテハ第一  
ニ日本側トノ各種ノ約束ヲ實行スルコトナリト述ヘタルニ許大使ハ支那側ニ於テ上海停戰協定ヲ忠實  
ニ實行スル場合ハ日本側ニ於テモ戰鬪行爲ヲ中止スルヤノ質問アリタルニ對シ大臣ヨリ根本問題タル  
滿洲國問題等ニ付十分覺悟ヲ決メタ上支那側カ何等申出スルニ於テハ我方ニ於テモ考慮ヲ加フヘキ趣  
旨ヲ申聞ケタリ

五二

0030

8.1.1.0 - 27

3982

